LIXIL

アーキラインスクリーンフェンス
ー 縦格子型・横格子型・門扉 ー　取付説明書

●このたびは、当社製品をお買いあげいただきましてまことにありがとうございます。
●この取付説明書に示した表示記号の内容は、製品を安全に正しく施工していただき、施主様等の危害や損害を未然に防止するためのものです。
表示記号の内容を良く理解したうえで、本書の内容(指示)にしたがってください。
●この取付説明書では、次のような記号を使用しています。

安全に関する記号	記号の意味
警告	●取扱いを誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負うおそれのある内容を示しています。
注意	●取扱いを誤った場合に、使用者が中･軽傷を負うおそれのある内容、または物的損害のおそれがある内容を示しています。
一般情報に関する記号	
ポイント	●取付手順で、特に注意して作業をしていただきたいことを示しています。 ●守っていただかないと組付けができない内容、または製品全体に後々不具合が発生するおそれのある内容を示しています。
※	●取付説明の内容全体(個々の説明枠)にかかる注意事項を示しています。 ●取付説明の内容に制限がある場合の条件を示しています。
補足	●説明の内容で知っておくと便利なことを示しています。

<施工の前に>

警告

●フェンスは隣地との境界を示す目的で設置するものです。転落防止を目的とした防護柵や歩行補助を目的とした手すりとしては使用しないでください。
●がけ上や高台など、転落したらケガをするおそれのある場所には、フェンスを使用しないでください。

注意

●製品の施工には、危険を伴う場合がありますので、必ず専門の工事業者による施工をお願いします。
●正しく施工，組付けをするために、施工前に必ず取付説明書をお読みください。
●製品の施工については、必ず取付説明書にしたがってください。

<施工上のご注意>

注意

●現場でブラケットや継手を組付け・締結する場合は、施工後に締結器具を必ず確認してください。締結不良は風による破損・飛散事故の原因になります。
●柱と本体ジョイント部の間隔は200mm以内で施工してください。それ以上離れると耐風圧強度が大幅に低下します。

ポイント

●本体パネルは、現場での高さ切詰めは行えません。

＜施工上の注意＞

⚠ 注 意

●施工工事にあたっては、安全に施工を行なってください。
- 作業服および保護具（保護帽、安全帯、眼、手、足の保護具）を正しく使用してください。
- 作業場所の整理整頓を行なうとともに、安全確保を行なってください。
  特に高所作業での安全確保、倒壊防止、照明による照度の確保など。
- 器具、工具、保護具などの機能を確認し、使用してください。
- 作業は、相互の作業と各作業工程を考慮して進めてください。免許、技能講習、特別教育が必要な作業は、有資格者が行なってください。
- 作業者が相互に安全確認を行なってください。健康状態を十分に確認し、健康管理を実施してください。
- 万が一、事故が発生した際には、直ちに手当てを行ない、救助を第一に心がけてください。

＜基礎工事について＞

⚠ 注 意

●コンクリート（またはモルタル）には、塩分を含む砂（海砂）および塩素系や強アルカリ系のコンクリート用混和剤（凍結防止剤、凝固促進剤、急結剤など）は使用しないでください。使用するとアルミなどの金属が腐食する原因になります。必要な場合は、非塩素系や非アルカリ系混和剤をご使用ください。

●ご使用になる場所に合わせて基礎寸法を算定してください。本取付説明書に記載している基礎寸法は、長期地耐力100KN/㎡、風速34m/s（※）相当の地域を想定した参考寸法です。

●柱埋込み時には水抜き孔を塞がないように施工してください。柱の腐食が促進されるだけでなく溜まった水が凍結し、破裂するおそれがあります。

●柱の内部にモルタルを詰めたりしないでください。

■梱包明細表

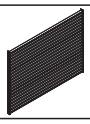
【1】縦格子 フェンス本体 フリー柱用

名　称	略　図	員 数
フェンス本体		1

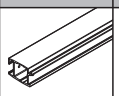
【2】縦格子 フェンス本体 間仕切柱用

名　称	略　図	員 数
フェンス本体（右）		1
フェンス本体（左）		1

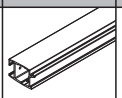
【3】横格子 フェンス本体 フリー柱用

名　称	略　図	員 数（組合せ）			
		H1800	H2000	H2500	H3000
フェンス本体H800		1	―	―	―
フェンス本体H1000		1	2	1	―
フェンス本体H1500		―	―	1	2

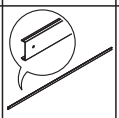
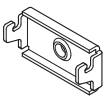
【4】縦格子 胴縁セット フリーポール用

名　称	略　図	員 数	
		3本入り	4本入り
胴縁		3	4

【5】縦格子 胴縁セット 間仕切柱用

名　称	略　図	員 数	
		3本入り	4本入り
胴縁		3	4

【6】縦格子 フリー柱

名　称	略　図	員 数		
		H1800-H2000	H2500	H3000
支柱		1	1	1
支柱裏蓋		1	1	1
胴縁受金具		3	3	4
【6-1】M4×20サラ小ネジ		2	2	2

C389_200909A

■梱包明細表（つづき）

【6】縦格子 フリー柱（つづき）

名　称	略　図	員 数		
		H1800･H2000	H2500	H3000
【6-2】M8×90六角ボルト		3	—	—
【6-3】M8×110六角ボルト		—	3	—
【6-4】M8×135六角ボルト		—	—	4
【6-5】M8バネ座金		3	3	4
【6-6】M8平座金		3	3	4
【6-7】φ4×13ナベドリルネジ		3	3	4

【7】縦格子 間仕切柱 中間

名　称	略　図	員 数		
		H1800･H2000	H2500	H3000
支柱		1	—	—
支柱		—	1	1

【8】縦格子 間仕切柱 端部

名　称	略　図	員 数		
		H1800･H2000	H2500	H3000
支柱		1	—	—
支柱		—	1	1
孔隠しシール		6	6	8
取付説明書〈C389〉	—	1	1	1

【9】縦格子 間仕切柱 コーナー

名　称	略　図	員 数		
		H1800･H2000	H2500	H3000
支柱		1	1	1
コーナー柱格子（右）		1	1	1
コーナー柱格子（左）		1	1	1
【9-1】φ4×19ナベドリルネジ		6	—	—
【9-2】φ4×16サラドリルネジ		—	6	8

【10】横格子 フリー柱

名　称	略　図	員 数		
		H1800･H2000	H2500	H3000
支柱		1	1	1
支柱裏蓋		1	1	1
胴縁受金具		6	7	8
【10-1】M4×20サラ小ネジ		2	2	2
【10-2】M8×90六角ボルト		6	—	—
【10-3】M8×110六角ボルト		—	7	8
【10-4】M8バネ座金		6	7	8
【10-5】M8平座金		6	7	8
【10-6】φ4×13ナベドリルネジ		6	7	8

【11】縦格子 胴縁継手

名　称	略　図	員 数	
		3個入	4個入
胴縁継手		1	1
【11-1】φ4×16トラスタッピンネジ3種		6	8
【11-2】φ4×25サラタッピンネジ3種		12	16

【12】縦格子 コーナー継手

名　称	略　図	員 数	
		3個入	4個入
コーナー継手		3	4
【12-1】φ4×12トラスタッピンネジ3種		6	8
【12-2】φ4×16トラスタッピンネジ3種		6	8
【12-3】φ4×25サラタッピンネジ3種		12	16

【13】縦格子 コーナー格子

名　称	略　図	員 数	
		H1800･H2000･H2500	H3000
コーナー格子		1	1
【13-1】φ4×25トラスタッピンネジ3種		3	4

■梱包明細表（つづき）

【14】縦格子 胴縁キャップ

名　　称	略　図	員 数	
		6個入	8個入
胴縁キャップ		6	8
【14-1】φ4×16トラスタッピンネジ3種		6	8
【14-2】φ4×25サラタッピンネジ3種		12	16
取付説明書〈C389〉	―	1	1

【15】縦格子 壁付け金具

名　　称	略　図	員 数	
		6個入	8個入
壁付け金具(右)		3	4
壁付け金具(左)		3	4
【15-1】M6×12サラ小ネジ		12	16
【15-2】M4×10トラス小ネジ		6	8
【15-3】φ4×20トラスタッピンネジ3種		6	8
【15-4】φ4×25サラタッピンネジ3種		12	16

【16】横格子 パネル連結カバー

名　　称	略　図	員 数
側枠上下カバー		2
【16-1】φ4×16サラドリルネジ		4

【17】横格子 端部側枠

名　　称	略　図	員 数
パネル端部カバー		1
【17-1】φ4×30サラドリルネジ		3
取付説明書〈C389〉	―	1

【18】横格子 コーナー部材

名　　称	略　図	員 数
コーナーカバー(1)		1
コーナーカバー(2)		1
【18-1】φ4×16トラスタッピンネジ3種		2
【18-2】M4平座金		2
【18-3】φ4×30サラドリルネジ		6

【19】門扉 縦格子本体 掛扉

名　　称	略　図	員 数
掛扉本体		1
戸当り		1
【19-1】φ4×13ナベドリルネジ		4

【20】門扉 縦格子本体 受扉

名　　称	略　図	員 数
受扉本体		1

【21】門扉 吊元門柱

名　　称	略　図	員 数
吊元門柱		1
門扉用ヒンジ		4
孔隠しシール		12
【21-1】M16×225六角ボルト		2
【21-2】M16平座金		4
【21-3】M16袋ナット		2
【21-4】M16×16六角孔付ボタンボルト		8
【21-5】M16×25六角孔付ボタンボルト		8
【21-6】M6バネ座金		16
【21-7】M6平座金		56

■梱包明細表（つづき）

【22】門扉 戸当り門柱

名　　称	略　図	員 数
戸当り門柱		1
ストライクケース		1
ストライクベース		4
ストライクケースキャップ		2
孔隠しシール		8
【22-1】φ4×20ナベタッピンネジ3種		8
【22-2】φ4×13サラドリルネジ		8
【22-3】φ4×10 トラスタッピンネジ		4

【23】門扉 ラッチ錠 片開き

名　　称	略　図	員 数
ケースハンドル		1
ケースハンドルラッチ		1
鎌デッド錠（シリンダー付）		1
ラッチストライク		1
鎌錠ストライク		2
シリンダーキー		6
【23-1】M4×40サラ小ネジ（錠用）		2
【23-2】M4×12サラ小ネジ（錠用）		4
【23-3】M4×14サラ小ネジ（錠用）		8
【23-4】M5×12サラ小ネジ（錠用）		4
※φ4×25サラ木ネジ		12
取付説明書〈C389〉	―	1

※サラ木ネジは錠に標準付属されていますが使用しません。

【24】門扉 ラッチ錠 両開き

名　　称	略　図	員 数
ケースハンドル		1
ケースハンドルラッチ		1
鎌デッド錠（シリンダー付）		2
ラッチストライク		1
鎌錠ストライク		2
シリンダーキー		6
落し棒受け		1
【24-1】M4×40サラ小ネジ（錠用）		2
【24-2】M4×12サラ小ネジ（錠用）		4
【24-3】M4×14サラ小ネジ（錠用）		8
【24-4】M5×12サラ小ネジ（錠用）		4
取付説明書〈C389〉	―	1

1. 基本寸法と各部の名称

1-1 F柱縦格子基本寸法図

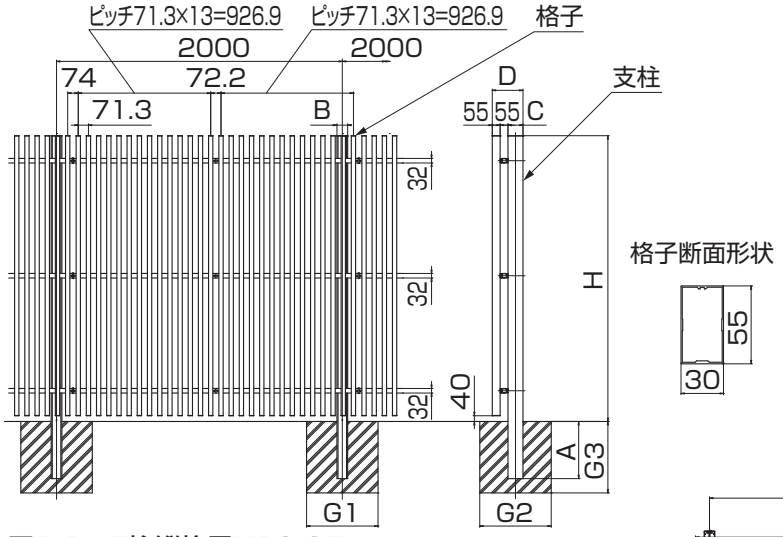


図1-1　F柱縦格子H18-25

表1-1

H	A	B	C	D	G1	G2	G3
1800	350	75	105	215	450	450	500
2000	400	75	105	215	500	500	500
2500	450	105	125	235	550	550	600

格子断面形状

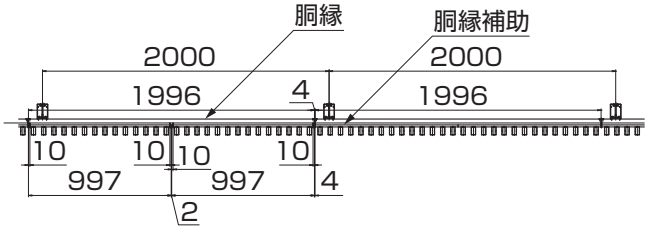


図1-4　断面詳細図

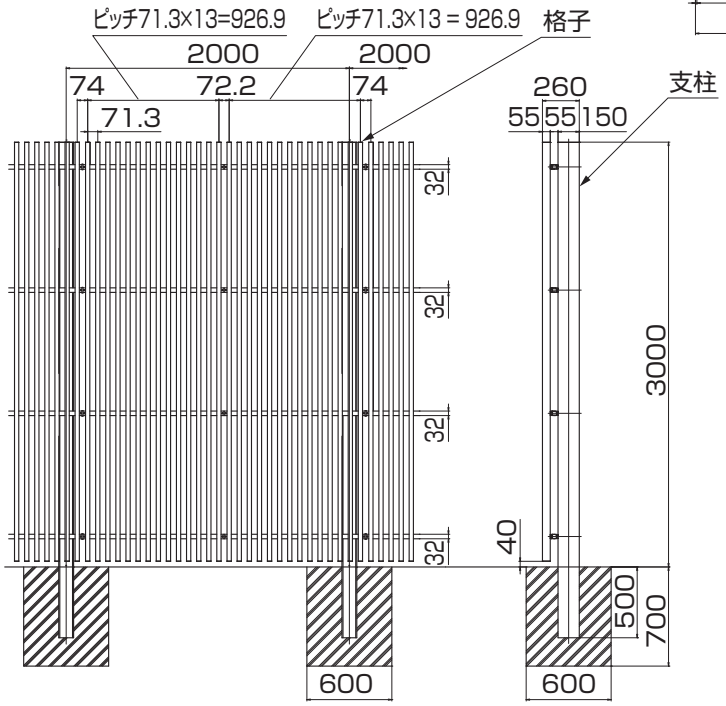


図1-2　F柱縦格子H30

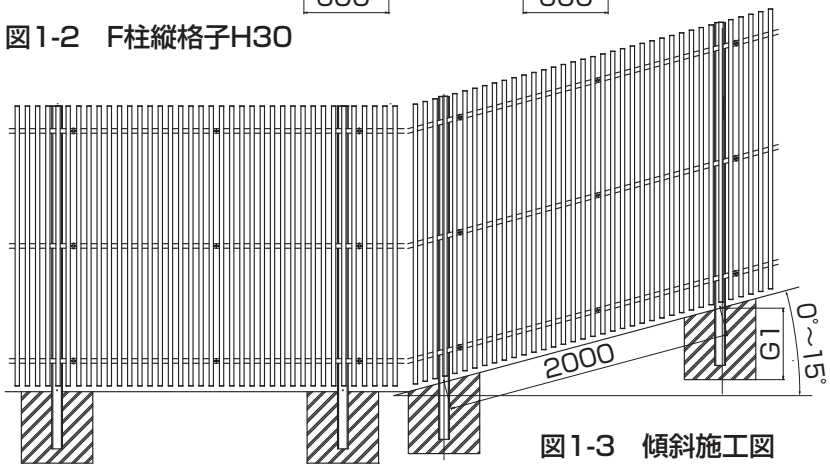


図1-3　傾斜施工図

1-2 横格子基本寸法図

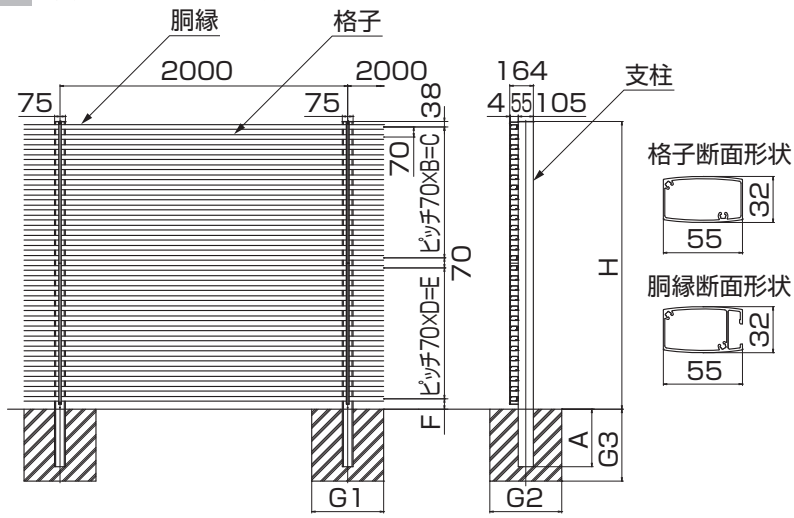


図1-5　横格子H18-20

表1-2

H	A	B	C	D	E	F
1800	350	10	700	13	910	82
2000	400	13	910	13	910	72

H	G1	G2	G3
1800	450	450	500
2000	500	500	500

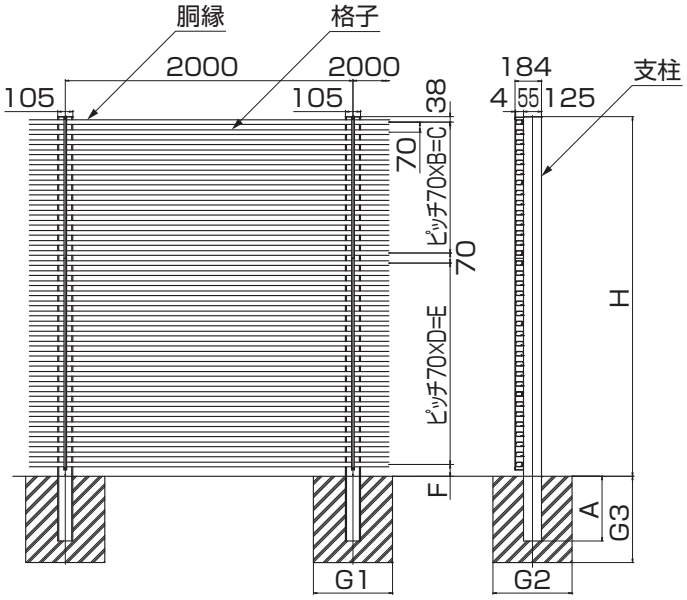


図1-6　横格子H25-30

表1-3

H	A	B	C	D	E	F
2500	450	13	910	20	1400	82
3000	500	20	1400	20	1400	92

H	G1	G2	G3
2500	550	550	600
3000	600	600	700

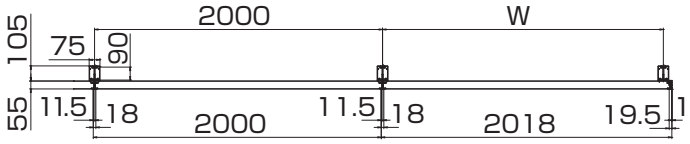


図1-7　断面詳細図

表1-4

H	W
1800・2000	1800～1950
2500・3000	1800～1935

1.（つづき）

1-3 間仕切縦格子基本寸法図

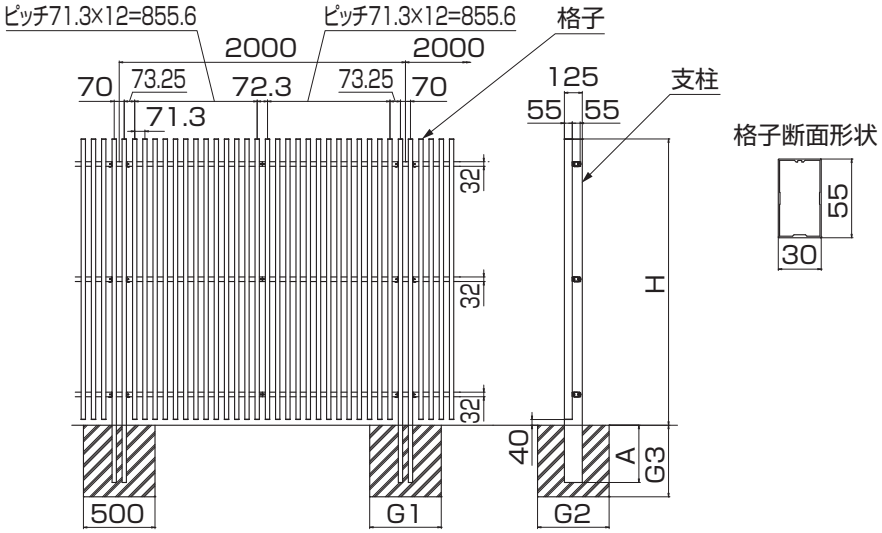


図1-8　間仕切縦格子H18-20（W柱）

格子断面形状

表1-5

H	A	G1	G2	G3
1800	350	450	450	500
2000	400	500	500	500

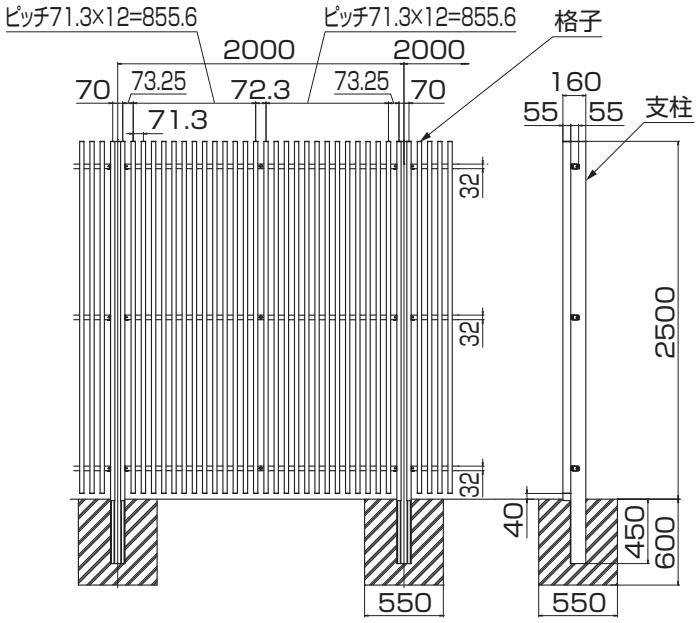


図1-9　間仕切縦格子H25（S柱）

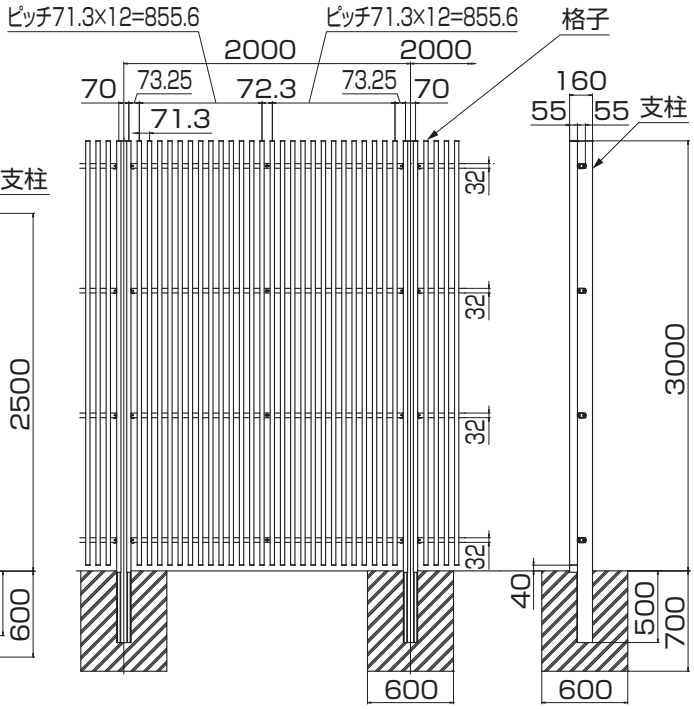


図1-10　間仕切縦格子H30（S柱）

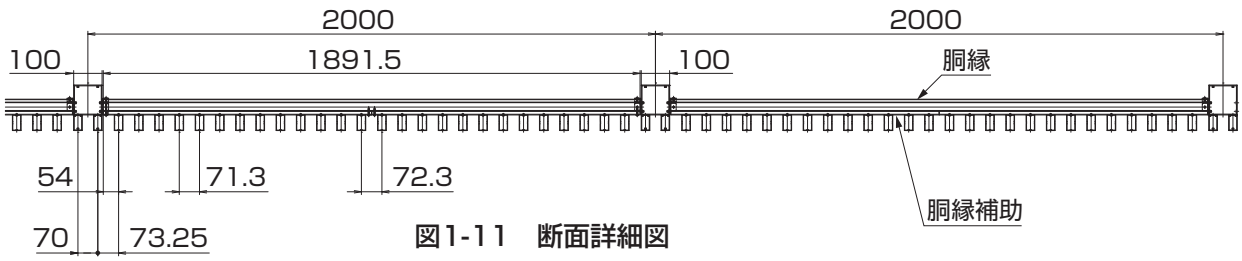
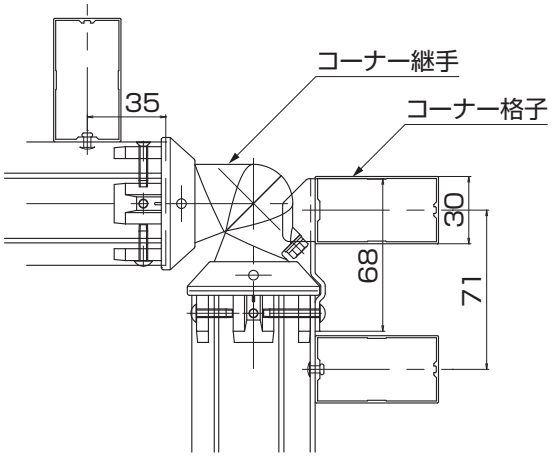


図1-11　断面詳細図

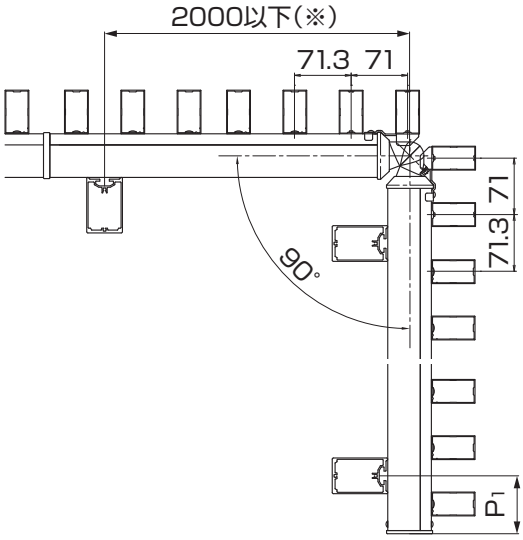
1-4 コーナー施工寸法図

(1)縦格子 フリー柱の場合



ポイント

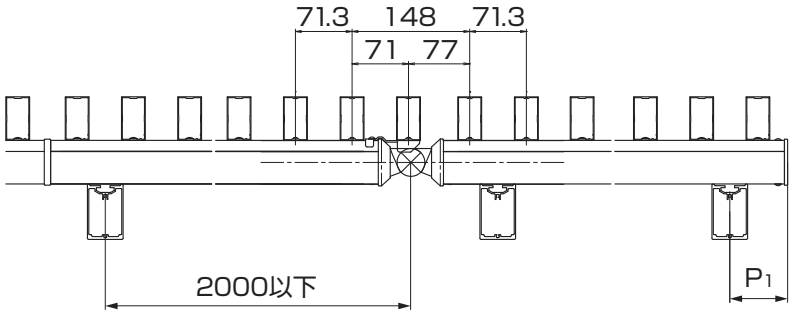
●コーナー継手は90°未満の鋭角には対応できません。

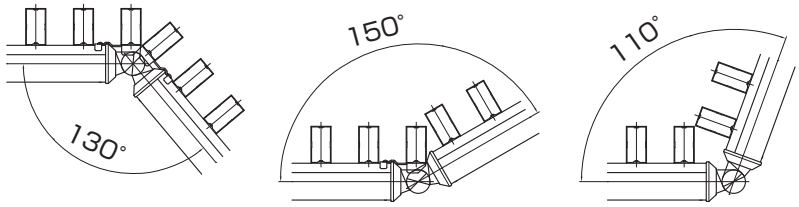


●P1:75以上200以下

ポイント

●コーナー格子は、出隅90°～130°の範囲で2本取付けることができます。
●出隅130°を超え入隅150°までの範囲で1本取付けることができます。
●入隅の限界角度は110°までです。
●110°未満の角度では本体の格子が干渉するので取付けできません。

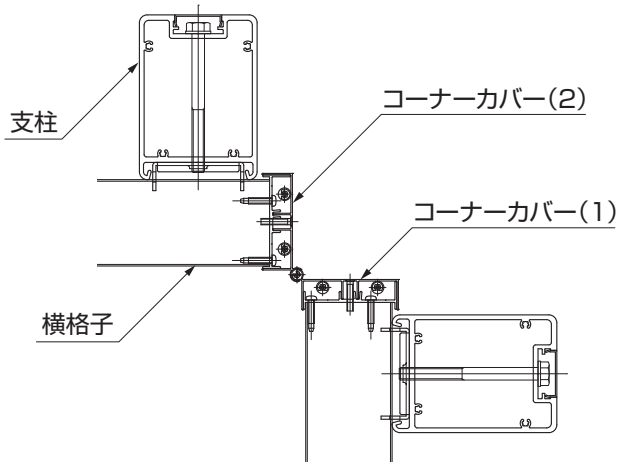


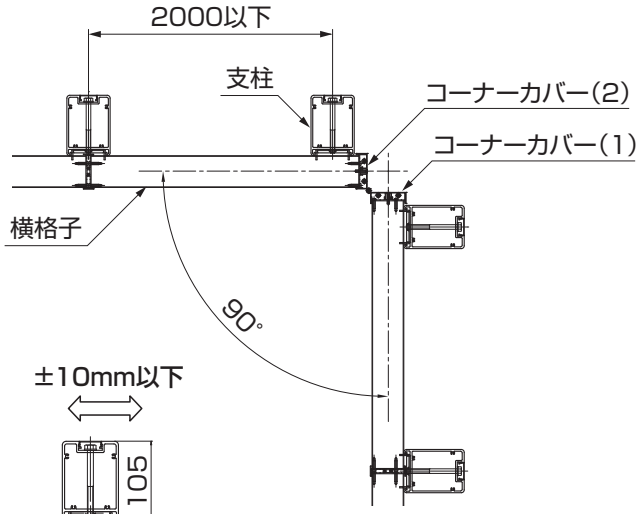


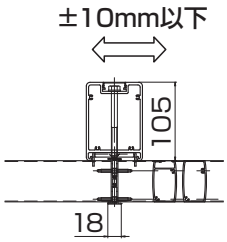
コーナー格子2本　　コーナー格子1本　　コーナー格子無し

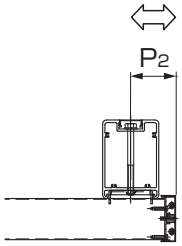
1. （つづき）

(2)横格子 フリー柱の場合









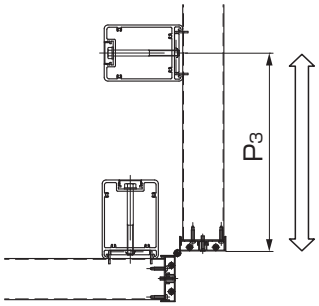
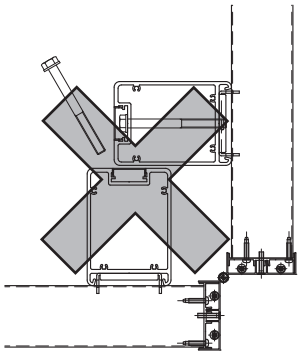


表1-6

H	P_2	P_3
1800−2000	60～200以下	220～300以下
2500−3000	75～200以下	250～300以下

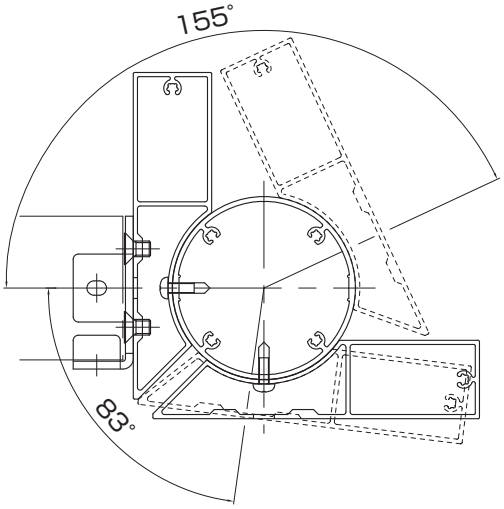


ポイント

●柱同士が干渉し合わないようにしてください。ボルトが取付かなくなります。

C389_200909A

（3）縦格子 間仕切柱の場合



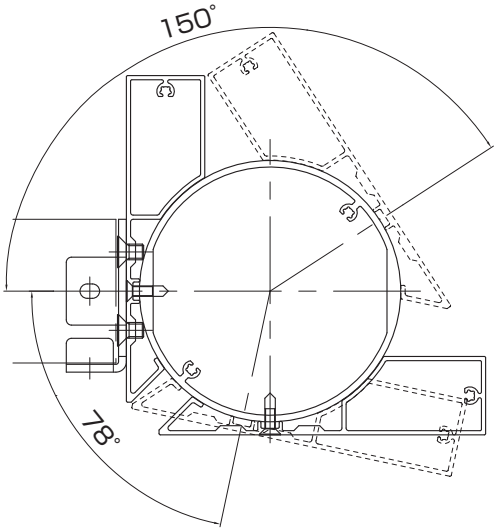


表1-7　縦格子間仕切柱の
コーナー対応可能角度

	H1800･2000	H2500･3000
出隅	83°～180°	78°～180°
入隅	155°～180°	150°～180°

2. 柱の施工

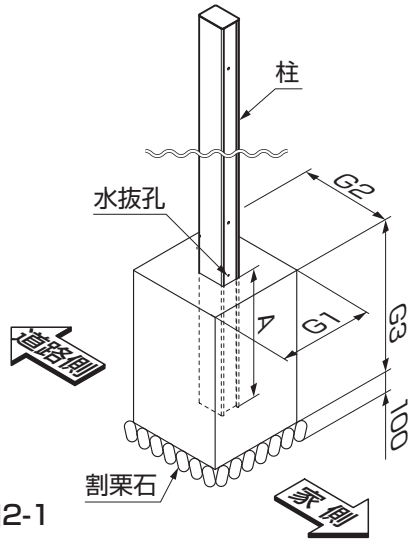


図2-1

①基本寸法図を参考に基礎施工を行い、柱をコンクリートで固定してください。

ポイント

●縦格子間仕切タイプのコーナー柱施工は23ページを参照ください。

表2-1

H	A	G1	G2	G3
1800	350	450	450	500
2000	400	500	500	500
2500	450	550	550	600
3000	500	600	600	700

ポイント

●傾斜施工時は、柱センター部が埋込レベルになるように施工してください。

3. 縦格子フリーポールタイプ基本施工

3-1 ブラケット・胴縁の取付け

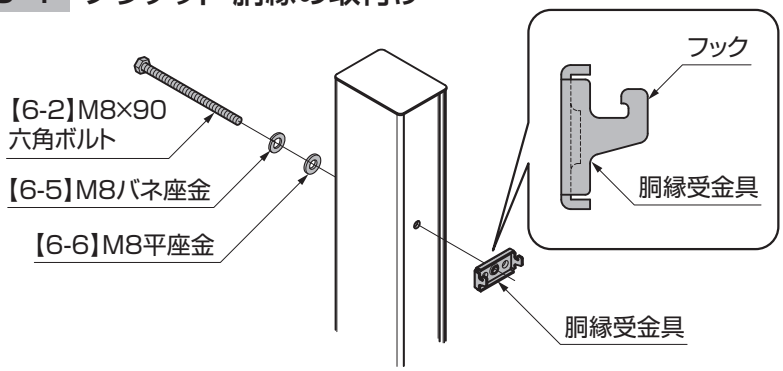


図3-1

①柱背面側の孔より【6-2】(【6-3】、【6-4】)のボルトと【6-5】、【6-6】の座金にて胴縁受金具を仮組してください。

ポイント

●胴縁受金具のフックが上を向くように取付けてください。

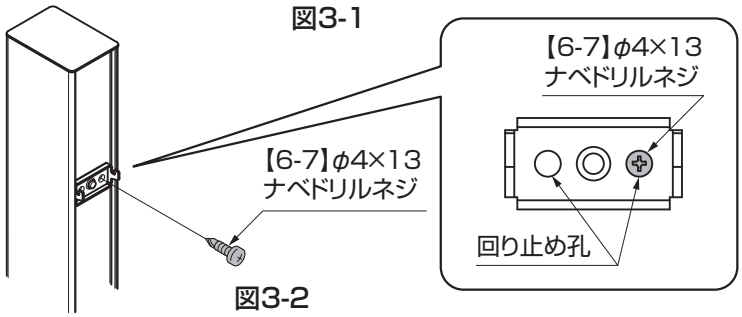


図3-2

②胴縁フックを水平もしくは傾斜角度に合わせて回り止め孔部分に【6-7】をねじ込み、ドリルネジの頭で金具が回転しないように固定してください。

ポイント

●回り止め孔は2個あります。どちらか作業し易い方の片側の孔にドリルネジをねじ込んでください。

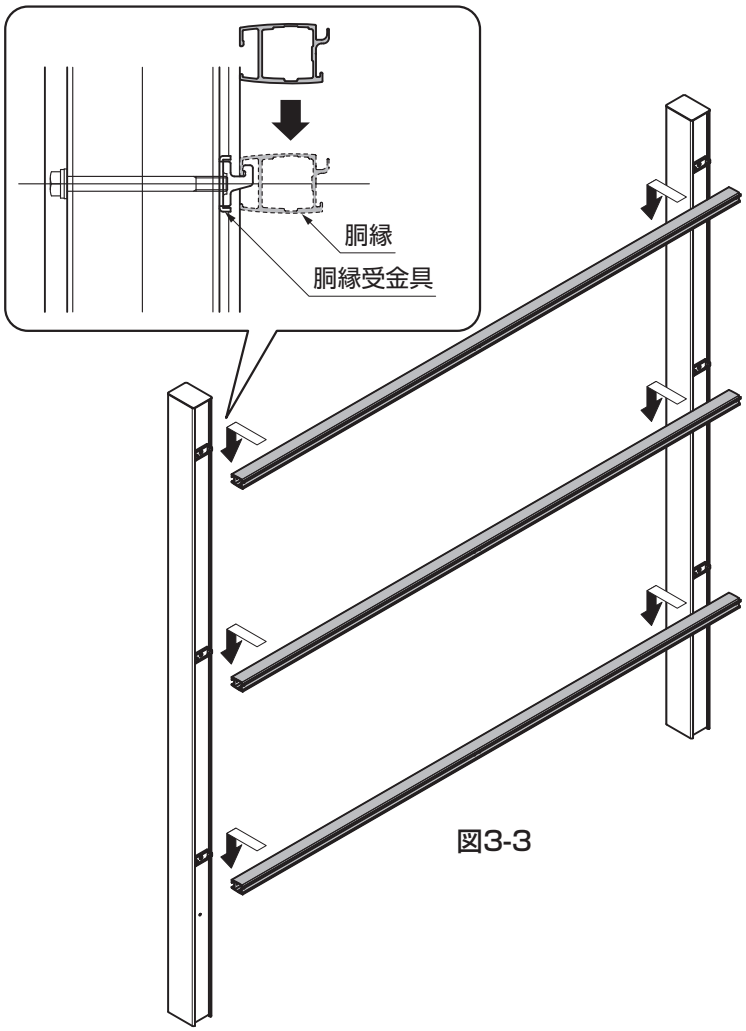


図3-3

③胴縁背面の溝に胴縁受金具のフック部分を差込み胴縁を仮固定してください。

C389_200909A

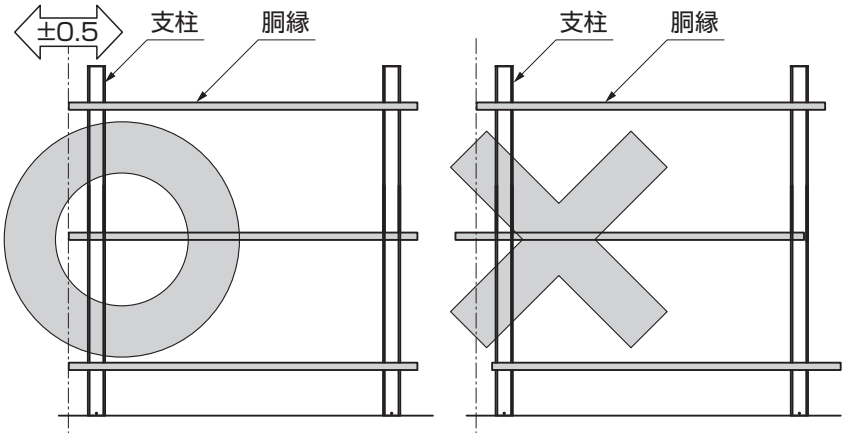


図3-4

④H-1800～2500の場合胴縁3本、H-3000の場合は4本の胴縁が水平方向の同じ位置に仮組みされているか確認してください。

補 足

●胴縁の水平方向のずれは±0.5mm以内で取付けてください。位置が大きく異なる場合は本体パネルの取付けができなくなります。

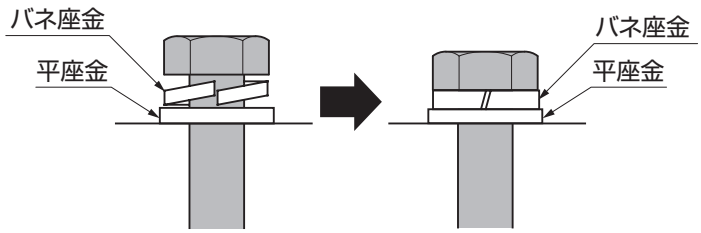


図3-5

⑤【6-2】(【6-3】、【6-4】)のボルトを締付けて胴縁を固定してください。

ポイント

●ボルトはバネ座金が圧縮され密着する程度の締付けで、製品強度は充分発揮されます。締め込み過ぎると支柱が変形して、支柱裏蓋が取付けできなくなりますので注意してください。

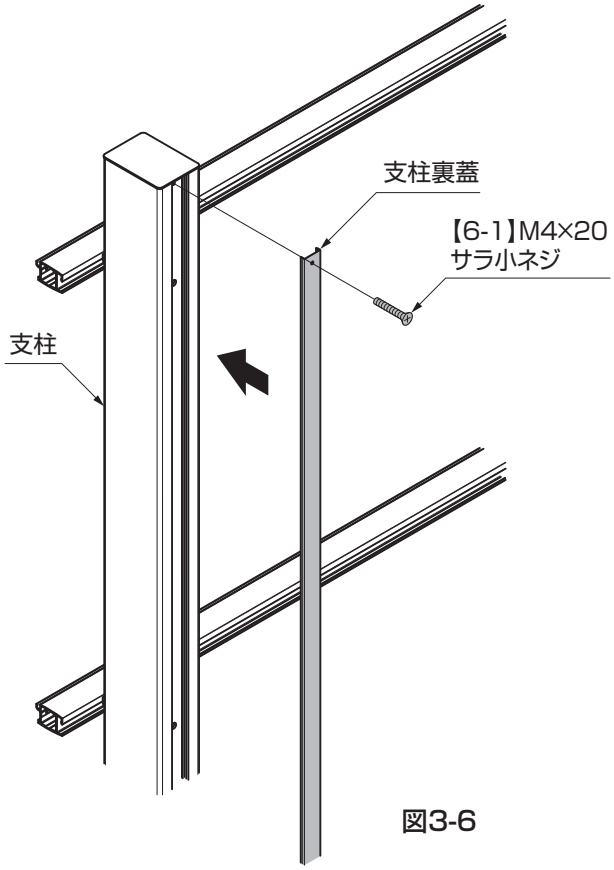


図3-6

⑥支柱裏蓋を支柱背面の溝に差込み、【6-1】で固定してください。

3.（つづき）

3-2 本体パネルの取付け

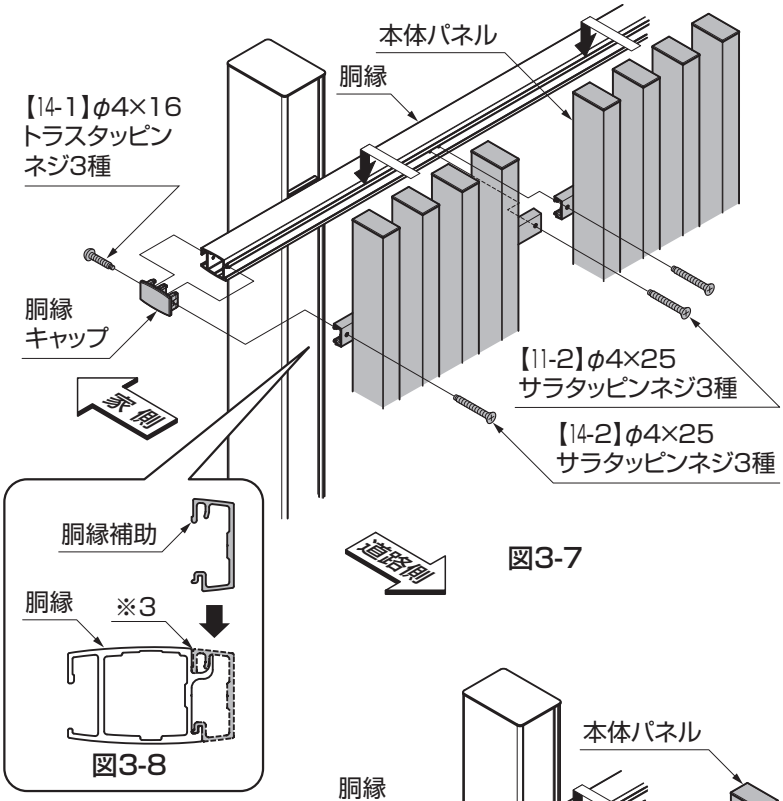


図3-7

図3-8

①本体パネルの胴縁補助を胴縁に引っ掛けるように取付けて、【11-2】（【12-3】、【14-2】）で固定してください。

ポイント

●胴縁と胴縁補助の天面（※3）が揃っていることを確認してください。
（図3-8参照）

②端部に胴縁キャップをはめて、【14-1】、【14-2】で固定してください。

ポイント

●端部の【14-2】固定は、胴縁キャップをはめてから行ってください。

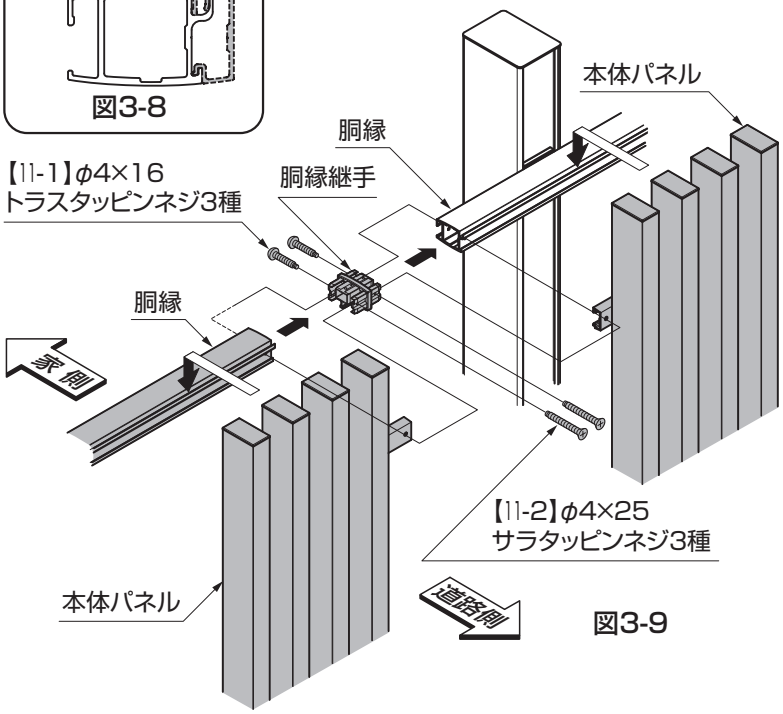


図3-9

③胴縁継手で胴縁同士をジョイントしてください。
④【11-1】で胴縁継手と胴縁を固定してください。
⑤③でジョイントした胴縁に①と同様に本体パネルを取付けてください。

ポイント

●先に家側を【11-1】で胴縁同士をジョイントし、本体パネルを引っ掛けてから【11-2】で本体パネルと胴縁継手を一緒に固定してください。

3-3 本体パネルの端部切詰め

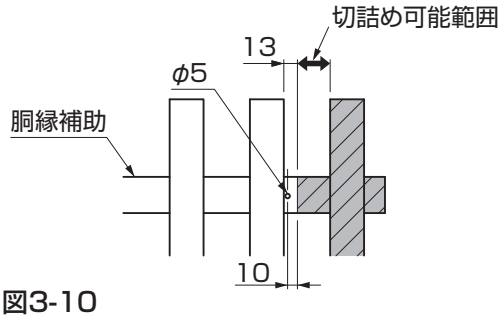


図3-10

①胴縁、胴縁補助を切詰め可能範囲内の長さで切断し、端部から10mmの位置に、胴縁補助にはφ5の孔、胴縁にはφ3.4の孔を前後に開け直して使用してください。（図3-10参照）

C389_200909A

4. 縦格子フリーポールタイプコーナー施工

4-1 本体パネルの取付け

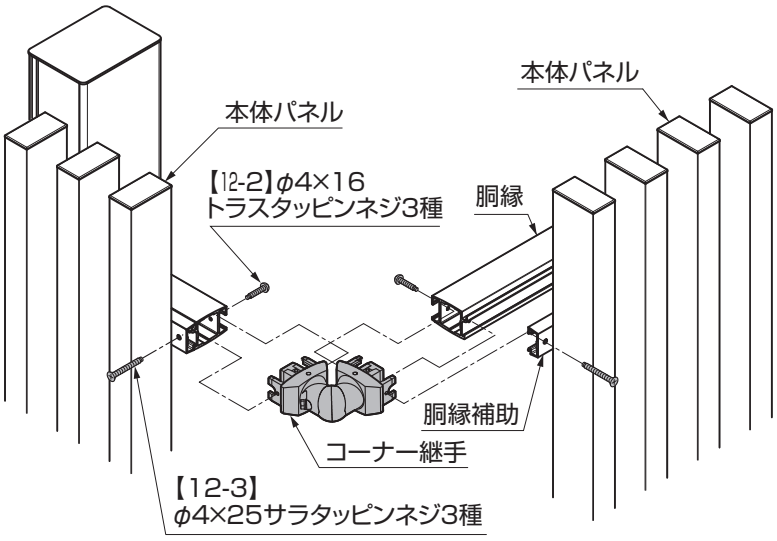


図4-1

①胴縁・胴縁補助、もう1方の胴縁にコーナー継手をはめ込み【12-2】、【12-3】で取付けてください。

ポイント

●コーナー継手は（※2）のボルトを緩め、各部品を回転することで3次元に向きを変えることができます。

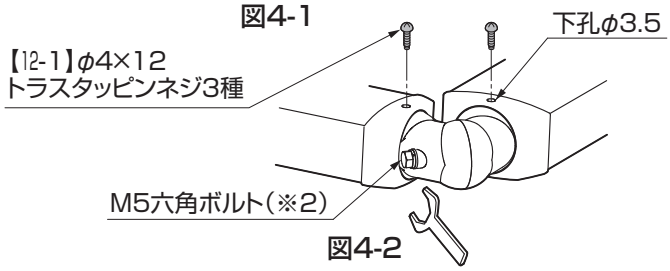


図4-2

②本体パネルを胴縁に引っ掛け、コーナー継手にスライドして呑み込ませ、【12-3】で固定してください。

③全て正しく施工していることを確認した後、（※2）のボルトと【12-1】でコーナー継手を固定してください。（図4-2参照）

4-2 コーナー格子の取付け

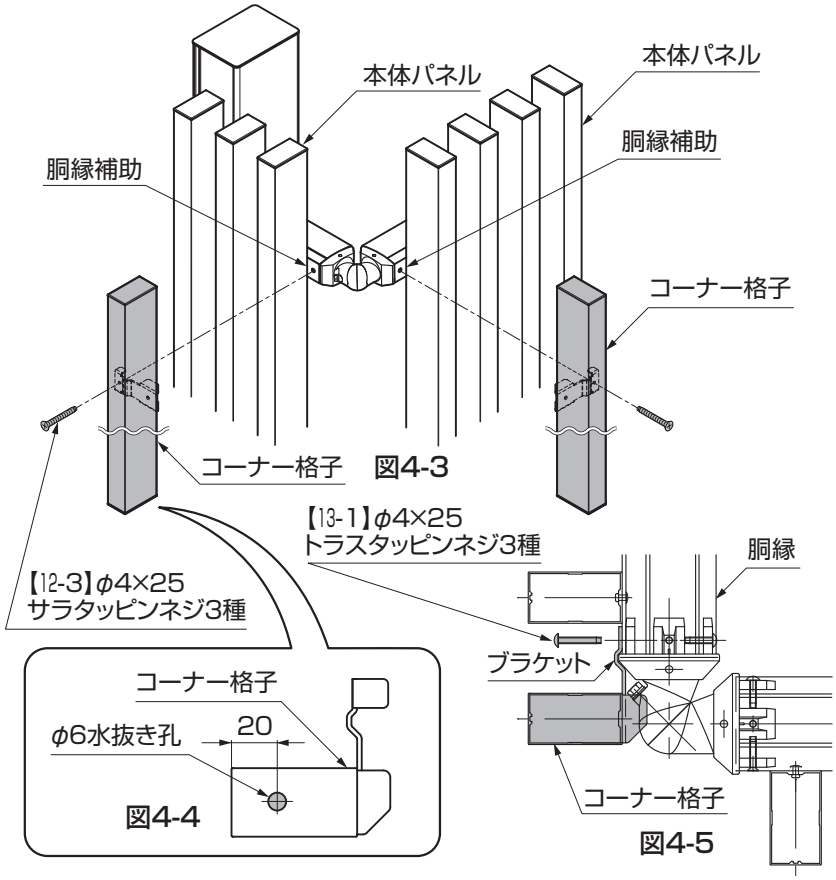


図4-3

図4-4

図4-5

①コーナー格子を取付ける側のコーナー継手パネル正面胴縁端部の【12-3】のネジを取外してください。

②コーナー格子は左右兼用となっています。格子の下側になるキャップに図を参照して水抜き孔を開けてください。（図4-4参照）

③コーナー格子のブラケットをパネル端部の胴縁に【13-1】で取付けてください。

ポイント

●コーナー格子は出隅90°～130°までの範囲でコーナー両脇の2本、130°を超え180°までの範囲でコーナーのどちらかに1本、入り隅で180°～150°までの範囲で1本、取付けることができます。

5. 横格子フリーポールタイプ基本施工

5-1 本体パネル(下)の取付け

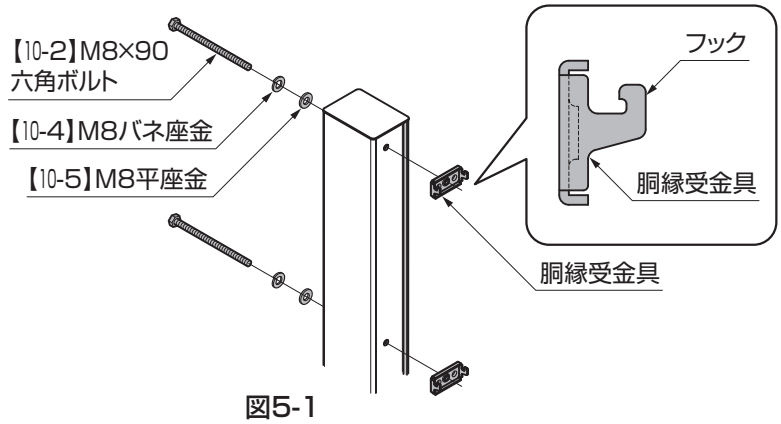


図5-1

①柱背面側の孔より【10-2】(【10-3】)のボルトと【10-4】、【10-5】の座金にて胴縁受金具を仮組してください。

ポイント

●胴縁受金具のフックが上を向くように取付けてください。

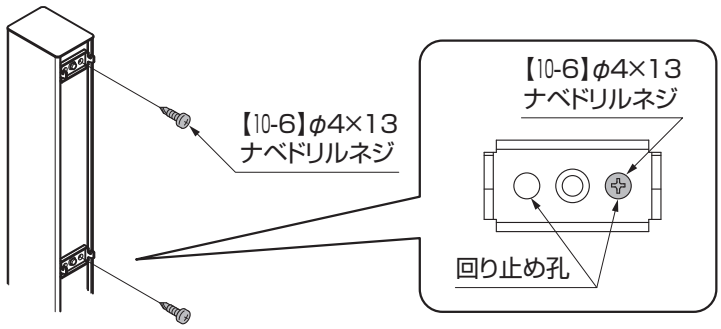


図5-2

②胴縁フックを水平に合わせて回り止め孔部分に【10-6】をねじ込み、ドリルネジの頭で金具が回転しないように固定してください。

ポイント

●回り止め孔は2個あります。どちらか作業し易い方の片側の孔にドリルネジをねじ込んでください。
●横格子タイプは傾斜に対応できません。金具は必ず水平になるようにしてください。

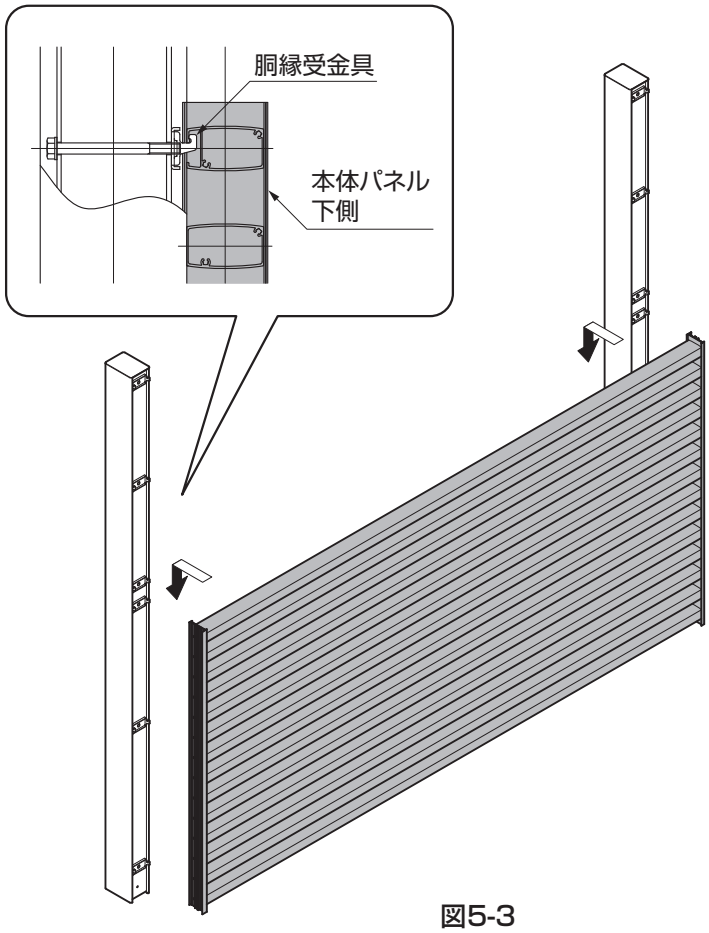


図5-3

③本体パネル下側を胴縁受金具に引っ掛けてください。

ポイント

●本体パネルは下側を先に取付けてください。フックに上から引っ掛ける構造のため、上側のパネルを先に取付けると下側の取付けができなくなります。
●施工呼び高さがH-2000とH-3000は上下どちらも同じパネルサイズですが、H-1800とH-2500は上下でパネルサイズが違います。大きいパネルを支柱の下側に取付けてください。

C389_200909A

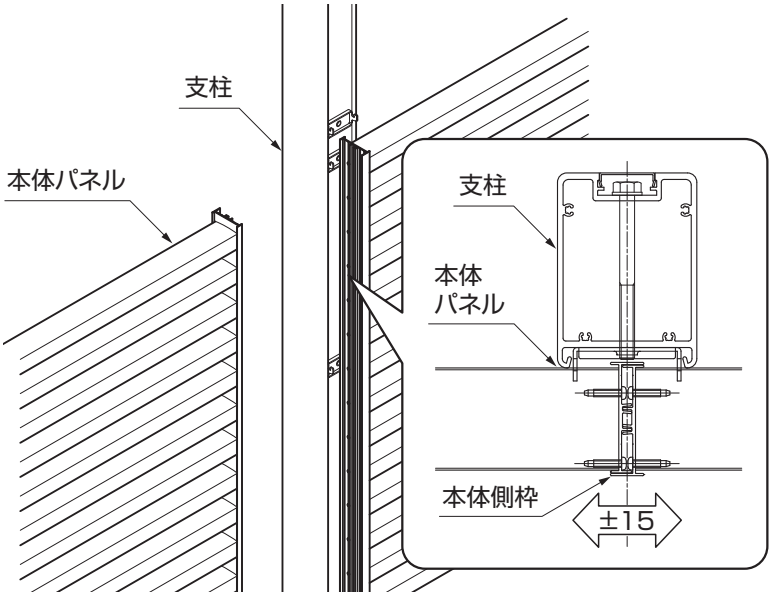


図5-4

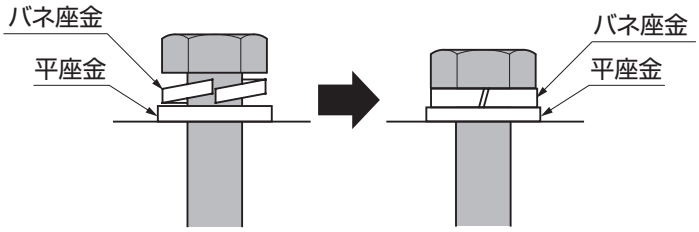


図5-5

④隣の連接する本体パネルを③と同様に胴縁受金具に引っ掛けてください。
⑤連接する本体パネルをスライドして本体側枠同士を密着させてください。

ポイント

●本体を直線に連接する部分は必ず本体パネルの側枠のある連接部に支柱が来るようにしてください。連接部本体側枠の位置は支柱の中心より±15mmの範囲で取付けることが可能です。端部またはコーナー部分のみ側枠より内側のパネル部分で本体を取付けるようにしてください。

⑥胴縁受金具が本体パネル胴縁に確実に入っていることを確認してから①の手順で取付けたボルトを締め込んで本体パネルを固定してください。

ポイント

●ボルトはバネ座金が圧縮され密着する程度の締付けで、製品強度は充分発揮されます。締め込み過ぎると支柱が変形して、支柱裏蓋が取付けできなくなりますので注意してください。

5-2 本体パネル(上)の取付け

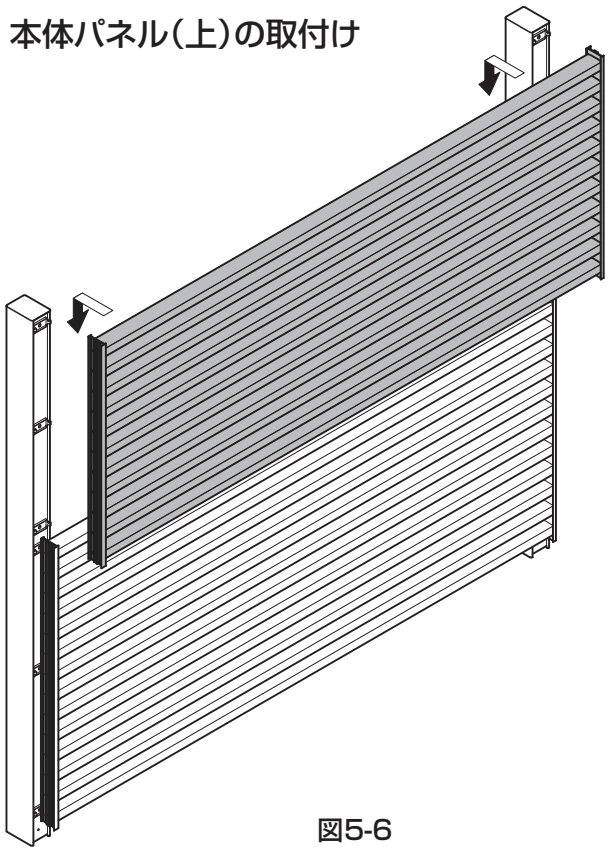


図5-6

①本体パネル(下)の上に本体パネル(上)を、取付けてください。
②本体パネル(下)と同様の手順で取付けてください。

5.（つづき）

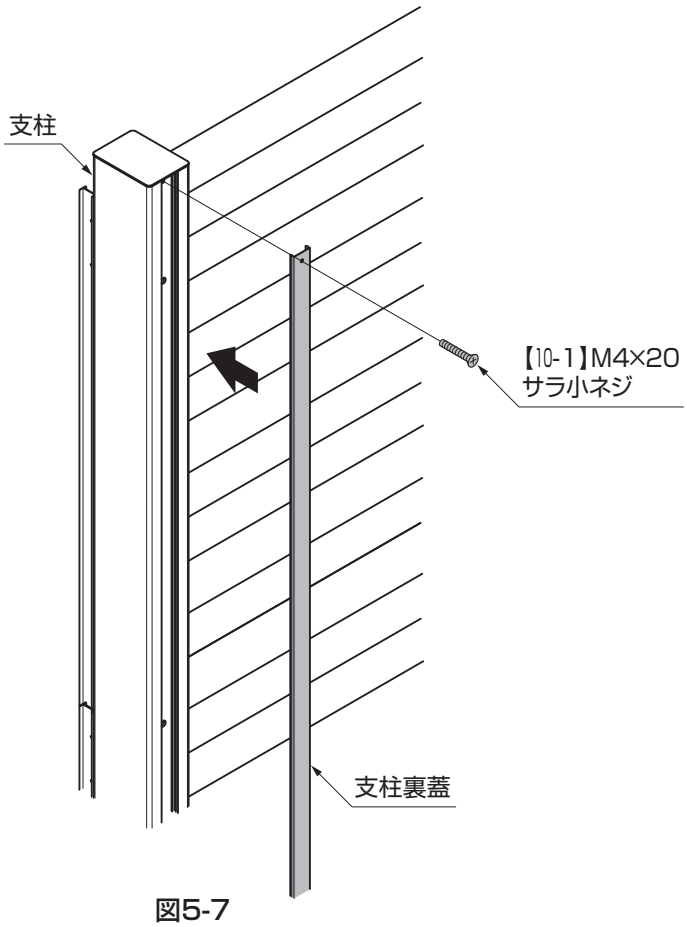


図5-7

③支柱裏蓋を支柱背面の溝に差込み、【10-1】で固定してください。

5-3 横格子パネル連結部カバーの取付け

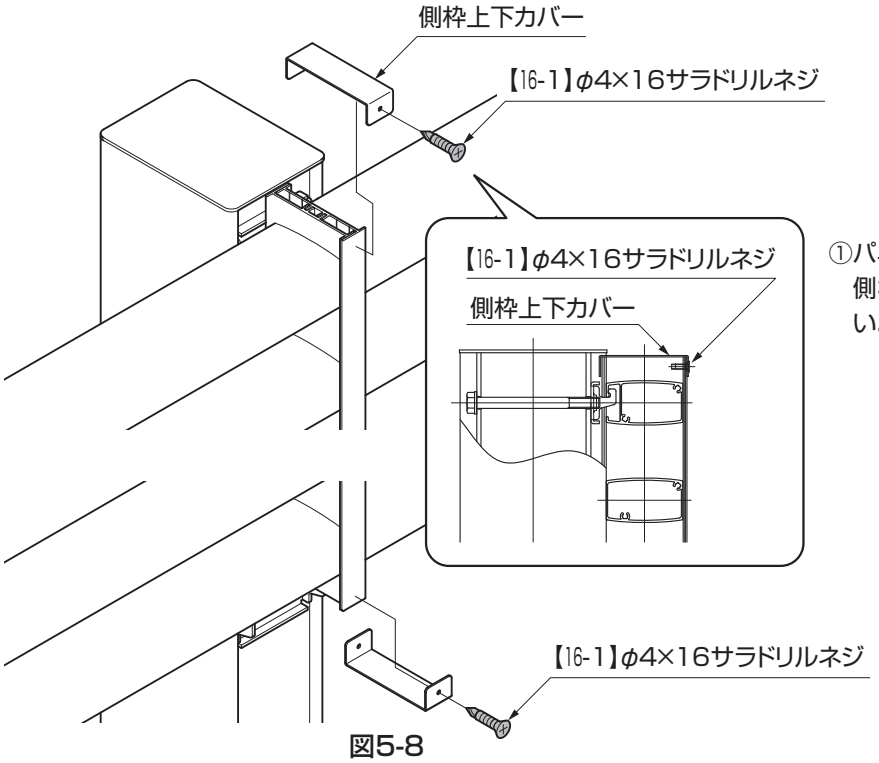


図5-8

①パネル連接部の本体パネル側枠の上下端に側枠上下カバーを【16-1】で取付けてください。

C389_200909A

5-4 本体パネルの端部切詰め

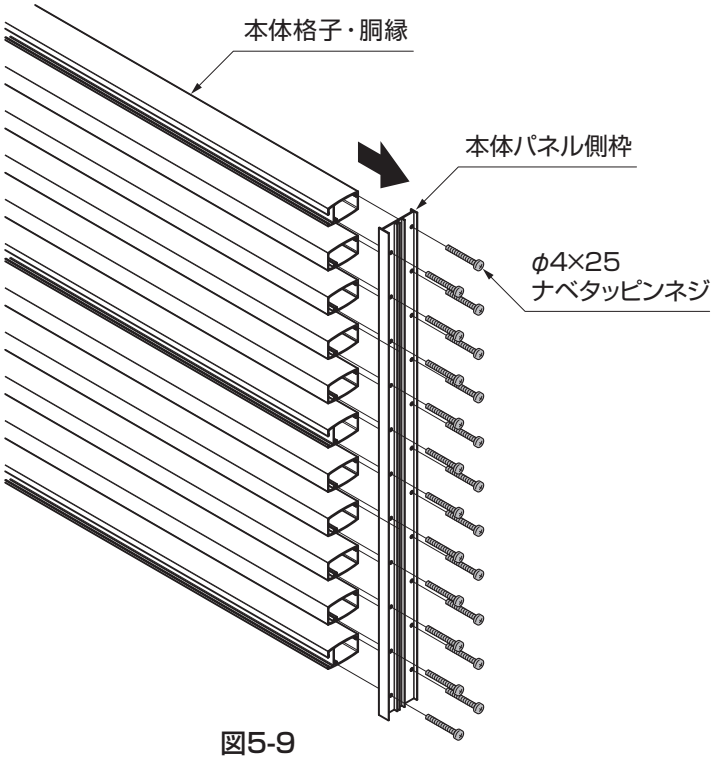


図5-9

①切詰めを行いたい側の本体パネル側枠を格子･胴縁に固定しているナベタッピンネジを全て取外します。
②格子と胴縁を必要寸法切詰めてください。

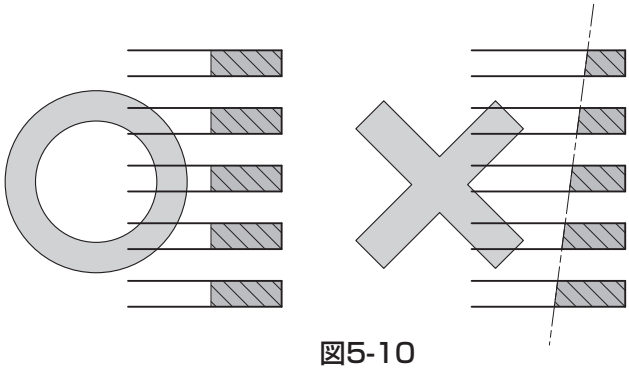


図5-10

ポイント

●格子と胴縁の切詰めは全て同一切断寸法にて切詰めてください。斜めカットを行なうと側枠を再度取付けることができなくなります。

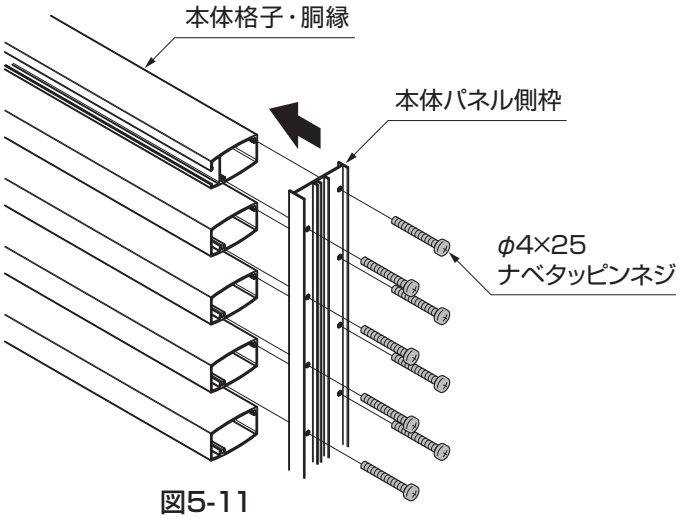


図5-11

③①で取外したナベタッピンネジで本体パネル側枠を格子と胴縁に取付けてください。

6. 横格子フリーポールタイプ コーナーカバーの取付け

6-1 コーナー部材の組立

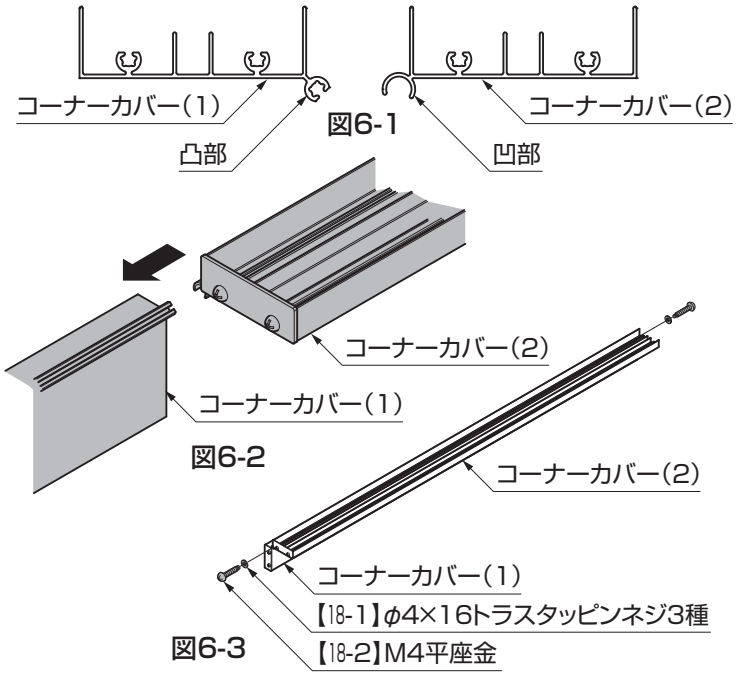


図6-1

図6-2

図6-3

①コーナーカバー(1)の凸部をコーナーカバー(2)の凹部に合わせて挿入してください。

②組合わせたコーナーカバーの両端に【18-1】、【18-2】を取付けてください。

6-2 コーナー部材の取付け

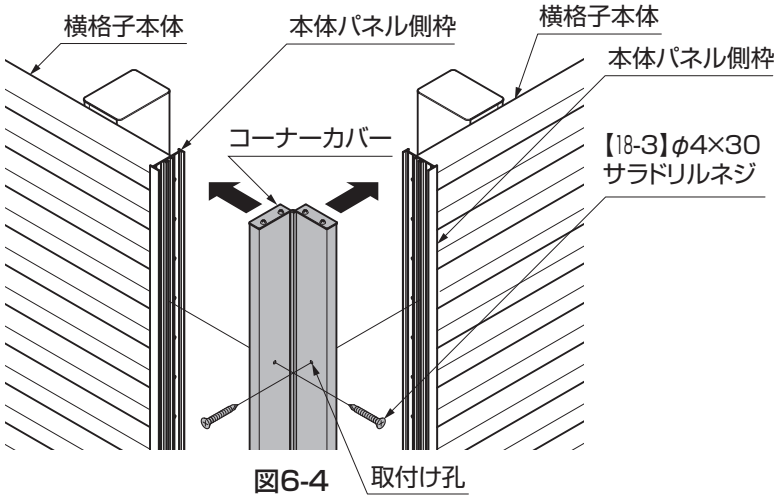


図6-4

①コーナーカバーを本体パネル側枠に被せ、取付け孔部分を目安に【18-3】でカバーを取付けてください。

7. 横格子フリーポールタイプ パネル端部カバーの取付け

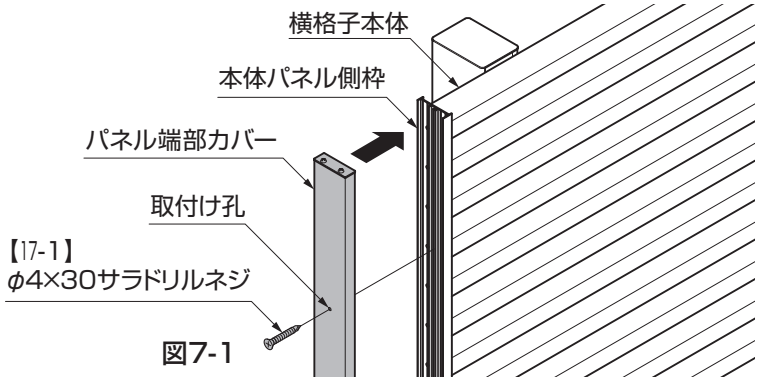


図7-1

①横格子パネル本体端部の本体側枠にパネル端部カバーを被せ、取付け孔部分を目安に【17-1】で取付けてください。

C389_200909A

8. 縦格子間仕切タイプの基本施工

8-1 本体パネルの取付け

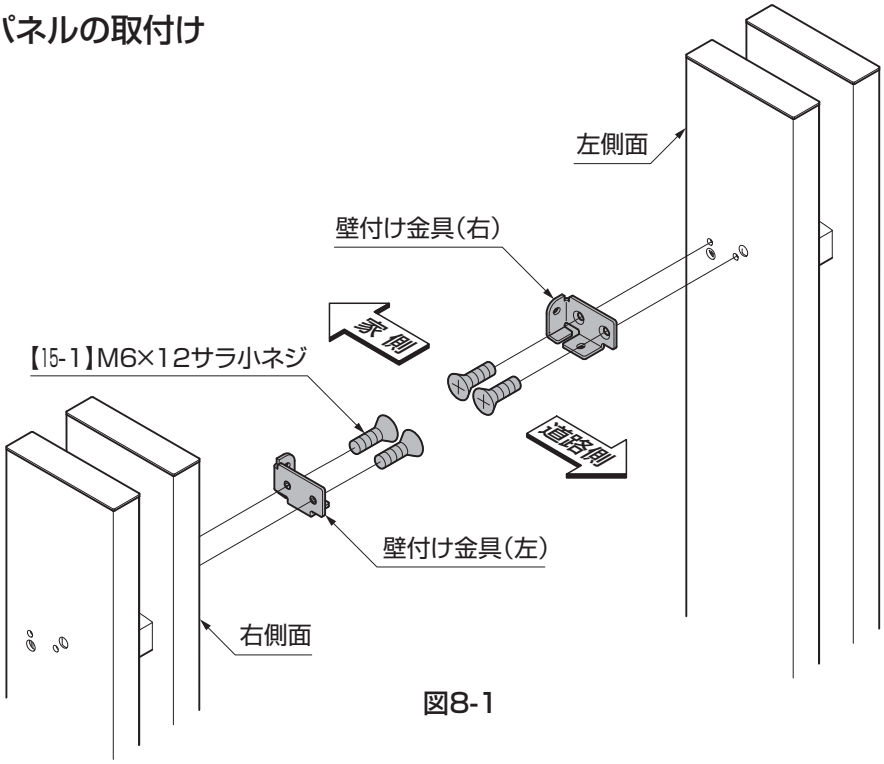


図8-1

①支柱右側面に壁付け金具(左)、支柱左側面に壁付け金具(右)を【15-1】で取付けてください。

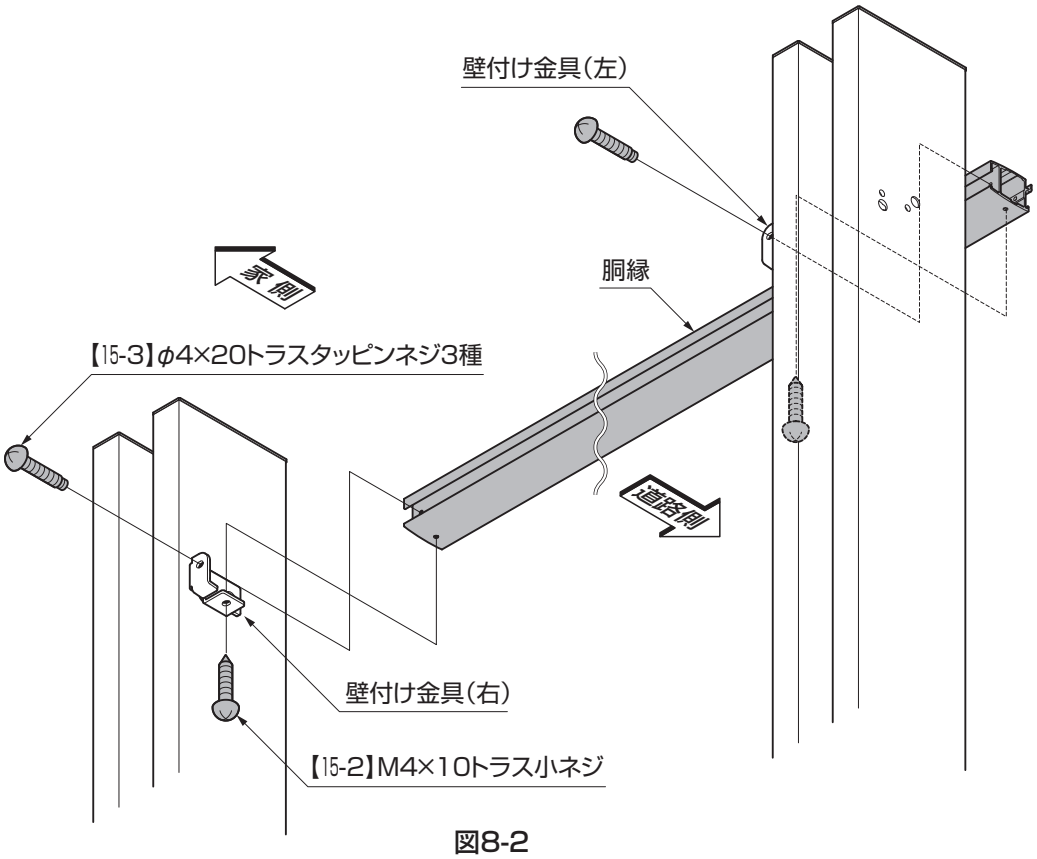


図8-2

②胴縁の下側を【15-2】、家側を【15-3】で壁付け金具に固定してください。

8.（つづき）

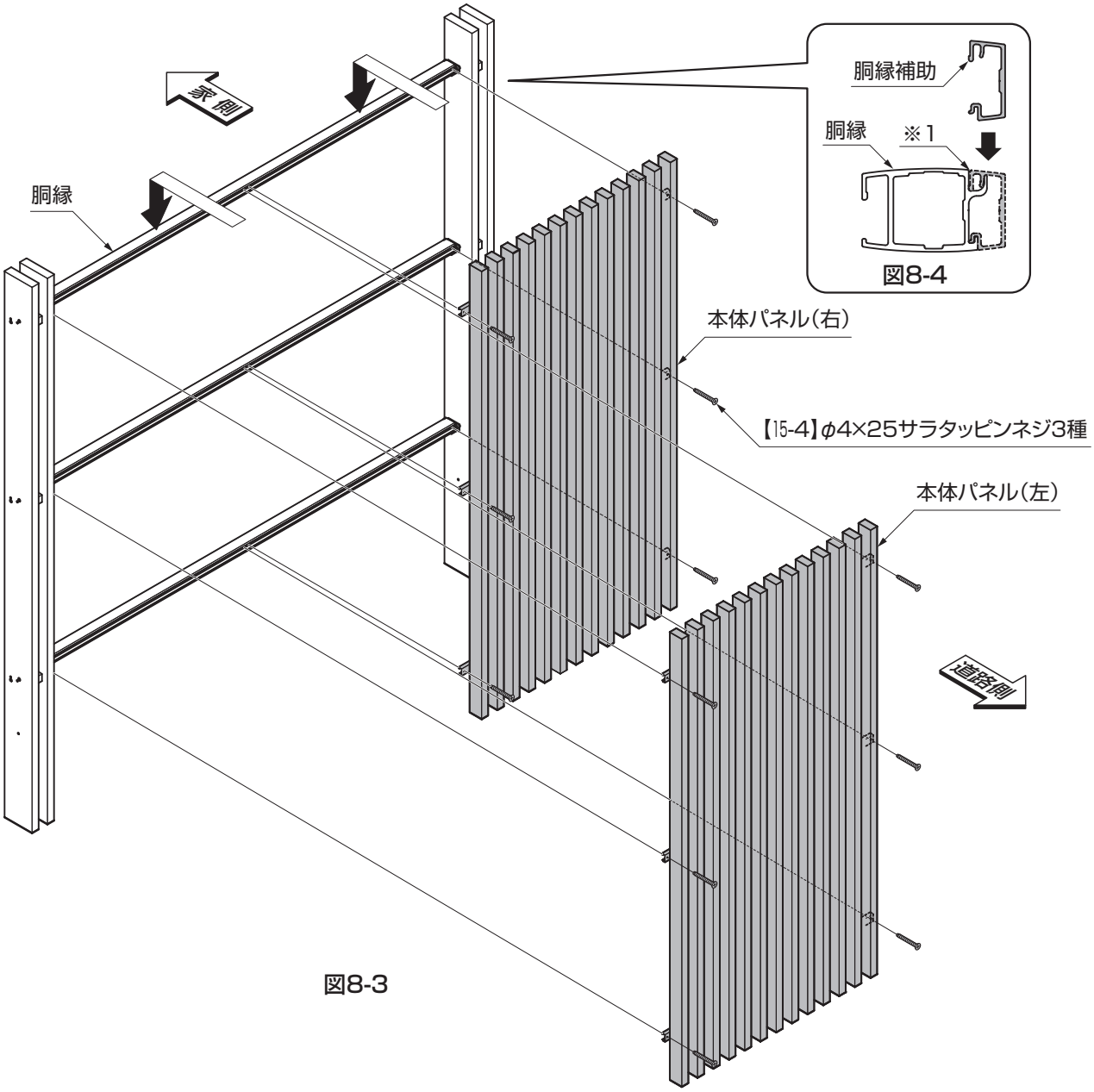


図8-3

③本体パネル（右）、（左）の胴縁補助を②で取付けた胴縁に引っ掛けるように取付けて、【15-4】で固定してください。

ポイント

●胴縁と胴縁補助の天面（※1）が揃っていることを確認してください。（図8-4参照）

8-2 本体パネルの端部切詰め

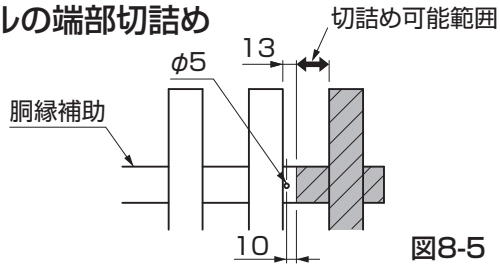


図8-5

①胴縁、胴縁補助を切詰め可能範囲内の長さで切断し、端部から10mmの位置に、胴縁補助にはφ5の孔、胴縁にはφ3.4の孔を前後に開け直して使用してください。（図8-5参照）

9. 縦格子間仕切タイプのコーナー施工

9-1 柱格子の取付け

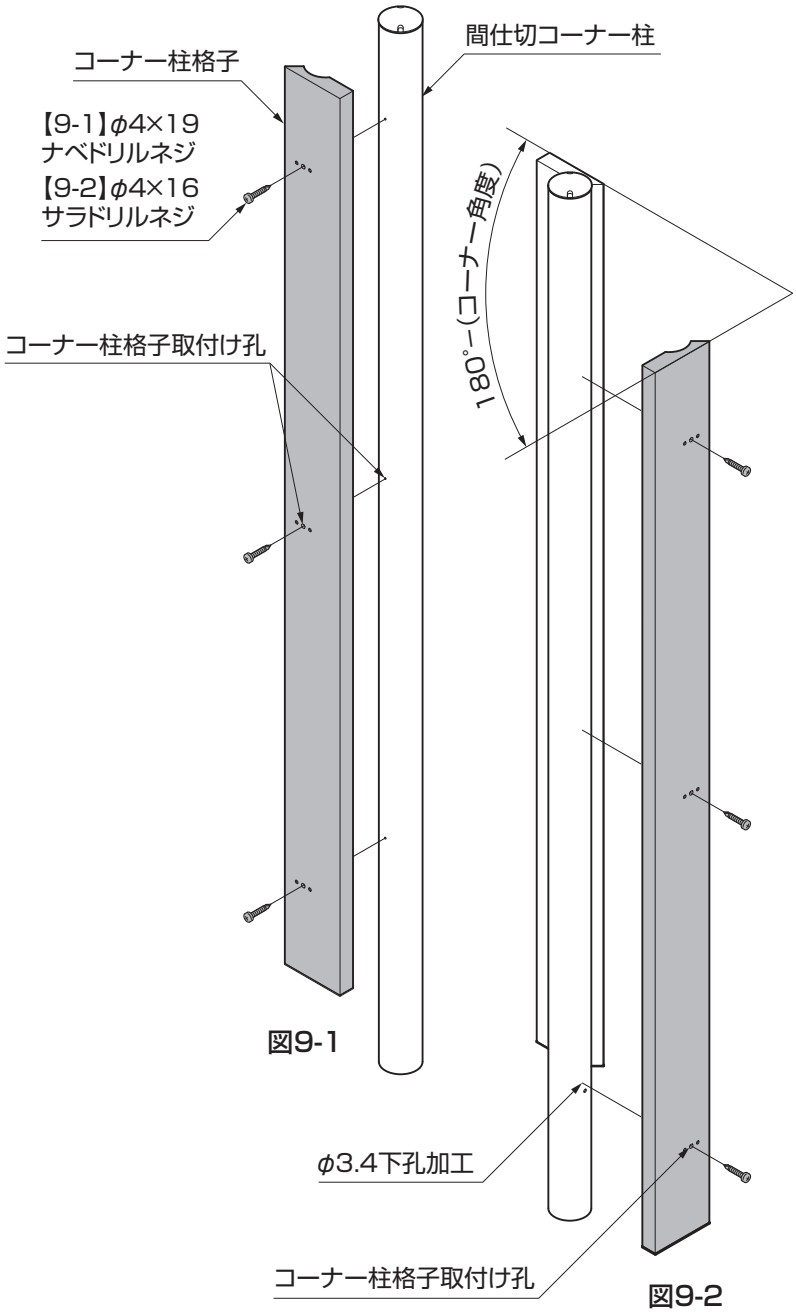


図9-1

図9-2

①間仕切コーナー柱に開いている下孔部分に、【9-1】または【9-2】で柱格子を取付けてください。

ポイント

●柱格子は右、左どちらを先に取付けても構いません。基準となる方向の取付け易い格子から取付けてください。

②もう一方の柱格子を間仕切コーナー柱に沿わせ、目的の角度に柱格子の向きを合わせてください。

③柱格子の取付け孔をガイドにして、間仕切コーナー柱にφ3.4mmの下孔を開けてください。

ポイント

●間仕切コーナー柱は部分的に偏肉となっています。
●下孔加工をせずに、格子取付けのドリルネジで直接孔開けを行なうとネジ頭を破損し、格子の取付けができなくなる場合がありますので、必ず下孔加工を行なってから格子取付けを行なってください。

9-2 柱の施工

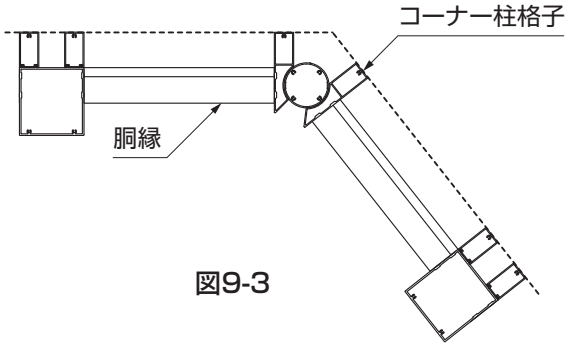


図9-3

①11ページ「2.柱の施工」表2-1を参照してコーナー柱を施工してください。

ポイント

●柱施工の際、柱埋め込み前に柱格子の前面が隣接する柱の格子と合っているか必ず確認してください。
●柱の向きが異なると、胴縁を取付けることができなくなります。

10. 門扉の施工

10-1 門扉の施工

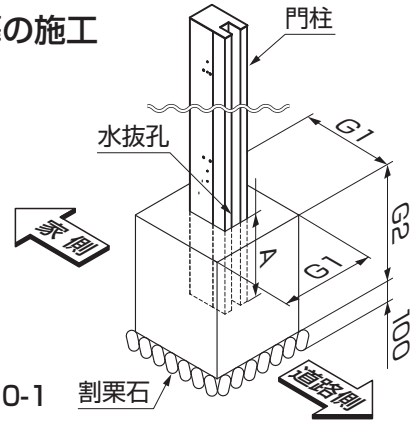


図10-1

表10-1

呼称	A	G1	G2	G3
H-1800	350	400	400	500
H-2000	400	450	450	600

※フェンスと連接される場合はフェンス本体の基礎寸法と同じ大きさにしてください。

10-2 片開き門扉の施工

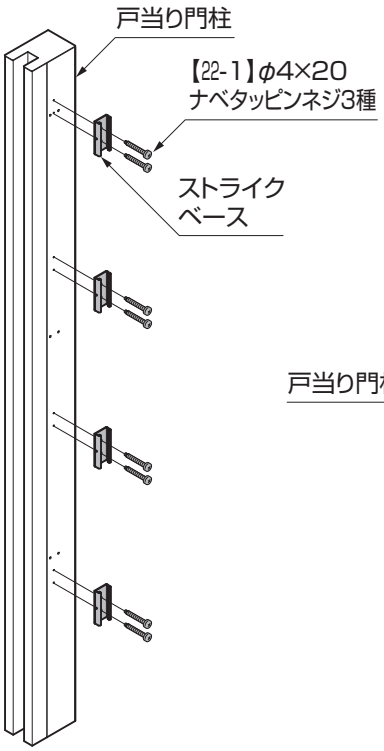


図10-2

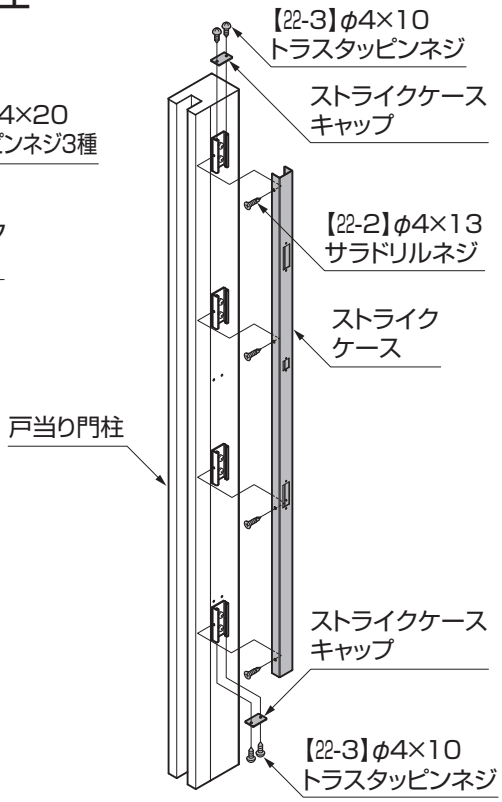


図10-3

①戸当り門柱の内側側面に【22-1】でストライクベースを取付けてください。

②①で取付けたストライクベースにストライクケースを【22-2】で取付けてください。

③ストライクベース最上部と最下部に【22-3】でストライクケースキャップを取付けてください。

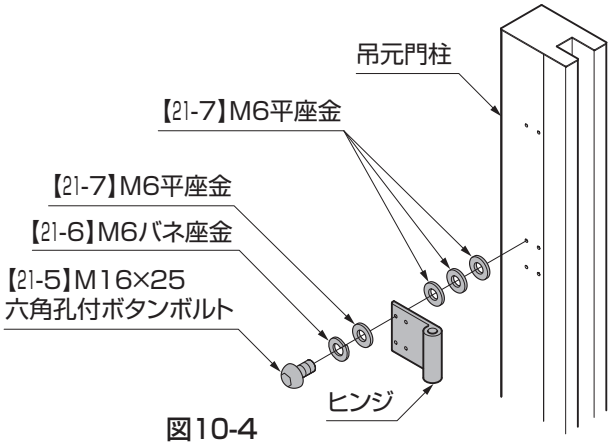


図10-4

④吊元門柱の内側側面に【21-5】、【21-6】、【21-7】でヒンジを仮組みしてください。

C389_200909A

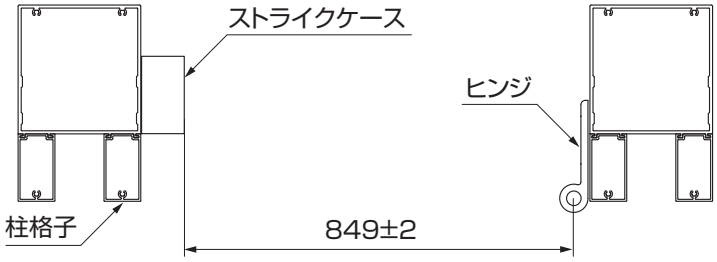


図10-5

⑤ヒンジ回転孔からストライクケース前面までの寸法が849±2mmの範囲に入るようにヒンジと吊元門柱の間に【21-7】を入れて【21-5】を締め付けてください。

ポイント

●柱間が標準寸法で施工されている場合の座金枚数は3枚です。門柱の倒れ、ねじれに応じて入れる座金の枚数を調整してください。

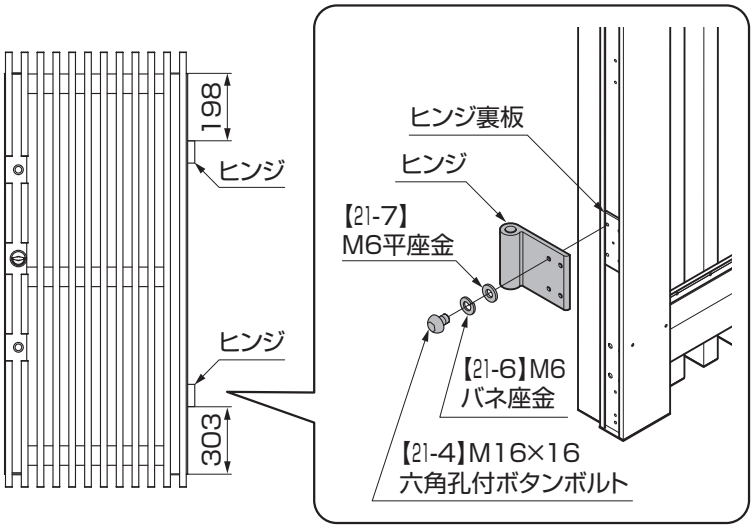


図10-6

⑥門扉本体の吊元側框に入っているヒンジ裏板２個に、ヒンジ２個を【21-4】、【21-6】、【21-7】で仮組みします。この時、ヒンジ取付け位置が図の位置に来るように調整してください。（図10-6参照）

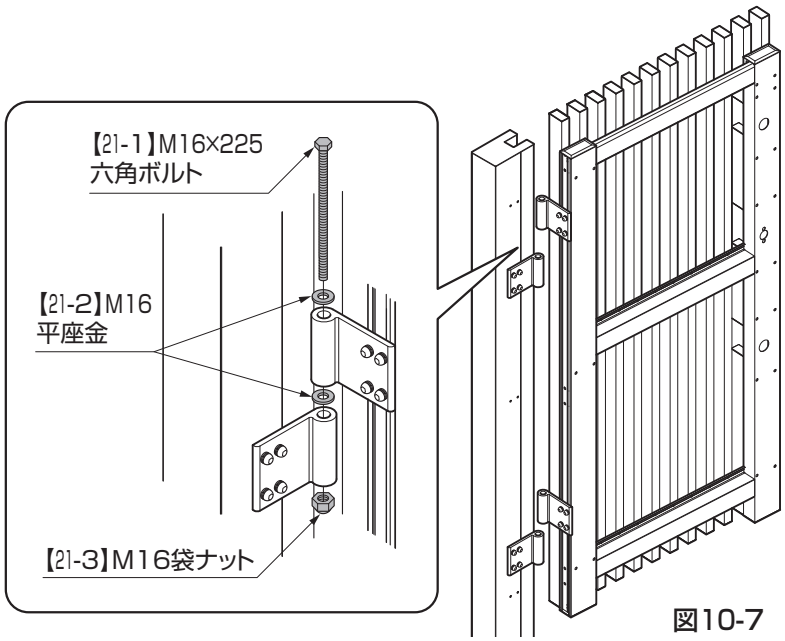


図10-7

⑦ヒンジを取付けた本体を吊元門柱に取付けたヒンジに、【21-1】、【21-2】、【21-3】で取付けてください。

⑧ヒンジの間に隙間の無いように間隔を調整し、⑥で仮組みした【21-4】を締め付けて固定してください。

10.（つづき）

10-3 両開き門扉の施工

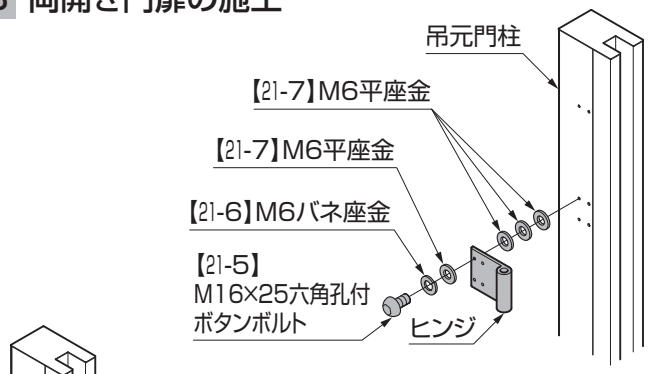


図10-8

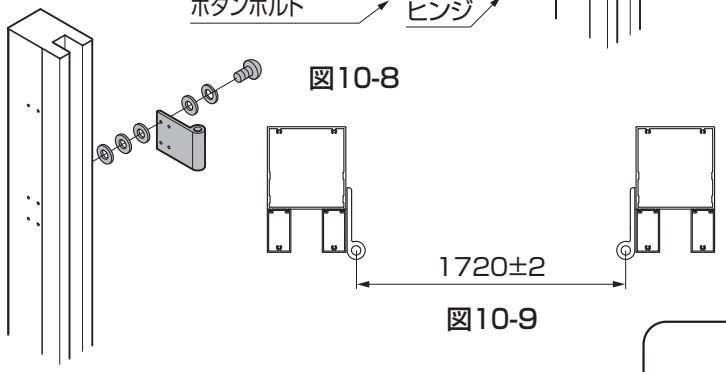


図10-9

①吊元門柱の内側側面に【21-5】、【21-6】、【21-7】でヒンジを仮組みしてください。

②ヒンジ回転孔同士の間隔寸法が1720±2mmの範囲に入るようにヒンジと吊元門柱の間に【21-7】を入れて【21-5】を締め付けてください。

ポイント

●柱間が標準寸法で施工されている場合の座金枚数は3枚です。門柱の倒れ、ねじれに応じて入れる座金の枚数を調整してください。

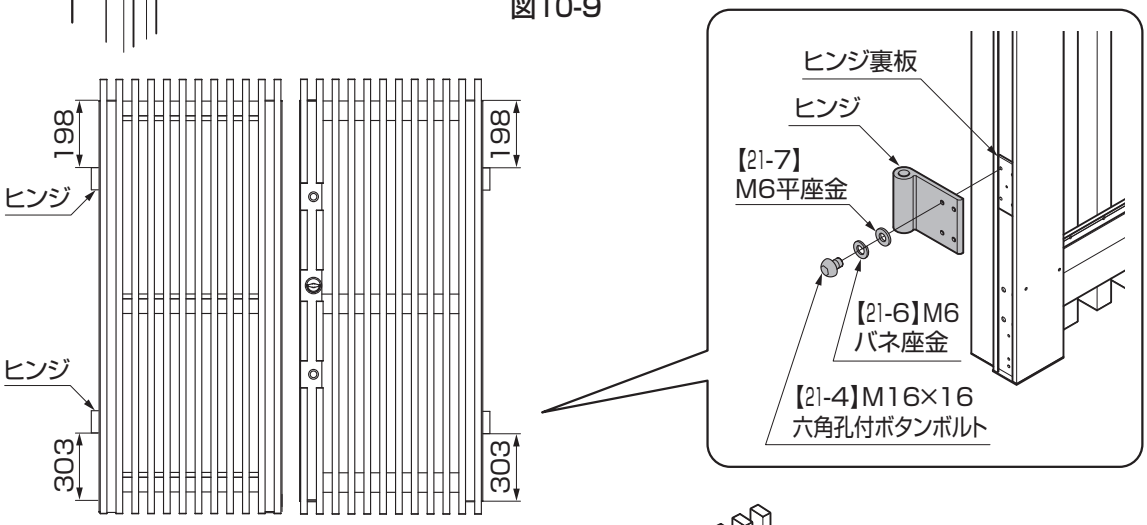


図10-10

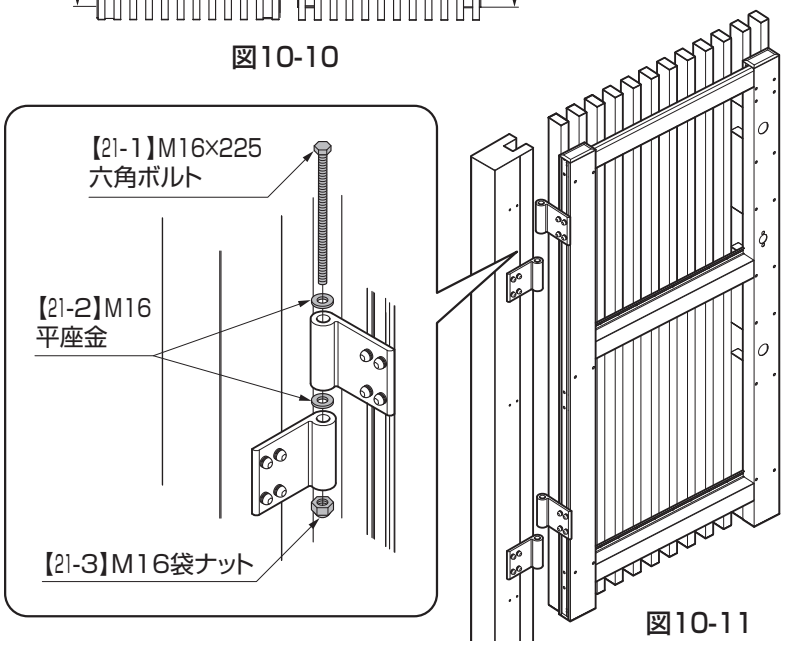


図10-11

③門扉本体の吊元側框に入っているヒンジ裏板２個に、ヒンジ２個を【21-4】、【21-6】、【21-7】で仮組みします。この時、ヒンジ取付け位置が図の位置に来るように調整してください。（図10-10参照）

※掛扉側と受扉側の両方同じ作業を行なってください。

④ヒンジを取付けた本体を吊元門柱に取付けたヒンジに、【21-1】、【21-2】、【21-3】で取付けてください。

⑤ヒンジの間に隙間の無いように間隔を調整し、③で仮組みした【21-4】を締め付けて固定してください。

C389_200909A

10-4 錠・戸当りの取付け

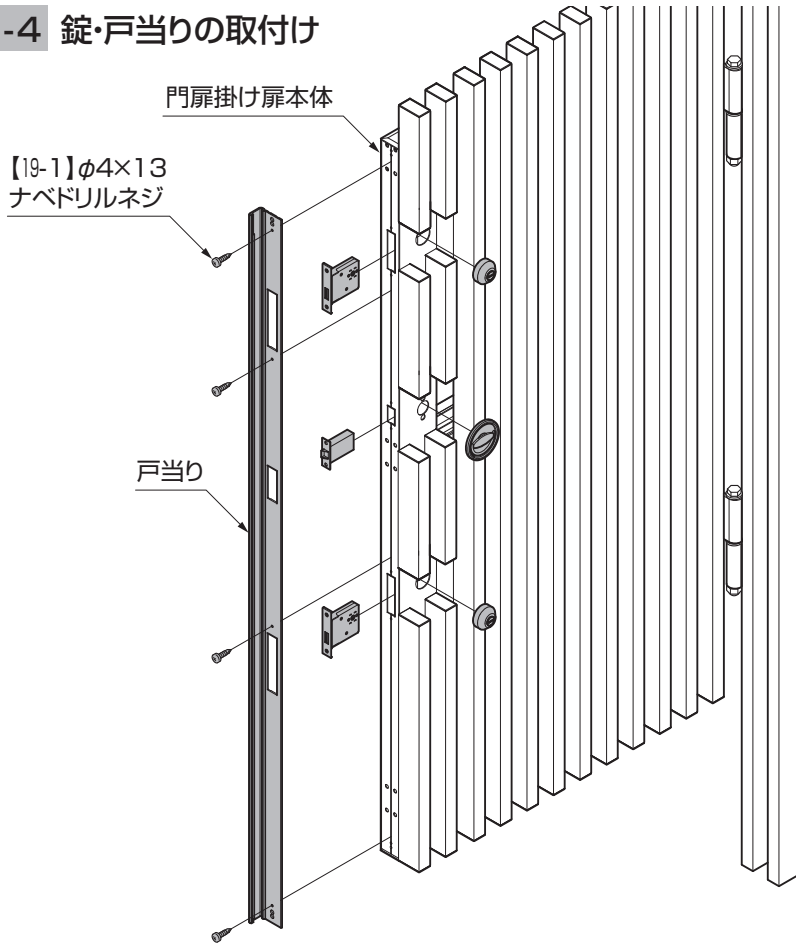


図10-12

①門扉掛け扉の錠取付け孔に、同梱の美和ロック錠取付け方法を参照しながらそれぞれ取付けてください。

②ストライクケースのストライク取付け孔にそれぞれストライクを取付けてください。

③戸当りを掛け扉戸先に【19-1】で取付けてください。

10-5 落し棒受けの埋め込み

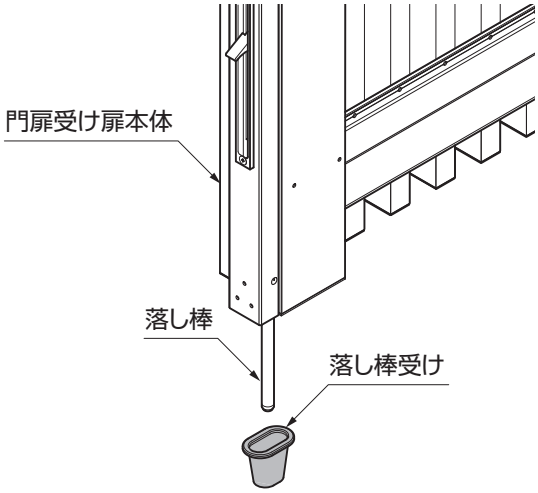


図10-13

①受け門扉を閉じた状態のG.L.面の落し棒の入る位置に落し棒受けを埋め込んでください。